

埃及
法律書

民法草案

B300
M 17
3

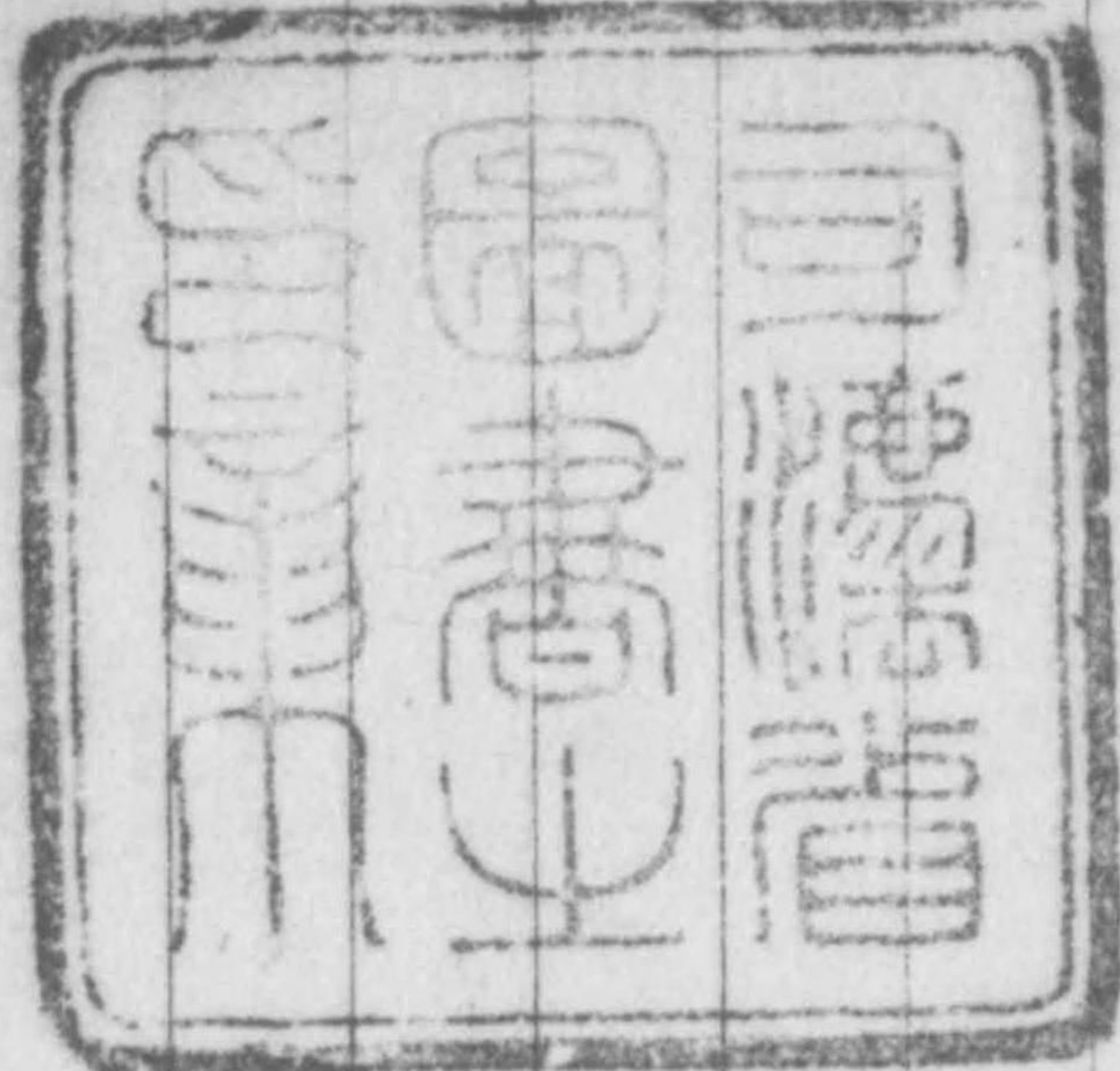


律書

埃及法

民法草案

卷一



B300
M 17
3

昭和4年
第3505號
12月16日受入

大審院文庫	
和書門	第29號
第一部	第1冊
才十四号	入

消印

埃及民法草案

B300

M17-3

A.C.

埃及法

律書

民法草案

權大内史莫作麟祥 譯

○前加篇

第一條

此律例中ノ諸法律ハ新ナル裁判所
ヲ開ク日ヨリ全國地内ニ之ヲ施行ス可シ

第二條

其法律ハ既往ニ之ヲ施行ス可カラ
ス

○然レ凡訴訟法律及ヒ裁判所管轄ノ法律

ハ新ナル裁判所ヲ開ク前ノ前ノ義務ヨ

リ生シタル争訟ヲ裁定スルニ之ヲ適用

ス可シ

第三條 新ナル裁判所ノ管轄タル可キ訴訟
ニ付キ從來ノ裁判所ニ於テ既ニ其本案ノ始
審確定ノ裁判ヲ為シタルトナキ時ハ新ナル
裁判所ニ於テ引續キ其訴訟ヲ為ス可シ
新ナル裁判所ニ於テノ訴訟ハ從來ノ裁判所
ニ於テ為シタル最終ノ訴訟手續ヨリ引續テ
之ヲ為ス可シ

第四條 人ノ身分及ヒ權利夫婦結縁中ノ規則遺
物相續ノ權遺囑贈遺ノ權後見及ヒ管財ニ管
シタル訴訟ハ本人ノ國ノ法律ニ循テ之ヲ裁
判ス可シ○新ナル裁判所ニ於テハ此等ノ訴
訟ヲ附帶ノ訴訟ト為シ裁判スルヲ得可キノ
ミトス又其新ナル裁判所ニ於テハ管轄ノ裁

判所ニ於テ此附帶ノ訴訟ヲ裁判ス可キ期限
ヲ定ムルヲ得可シ

第五條 不動産ハ縱令外國人ノ有スルモノ
ト虽モ本國ノ法律ニ循ヒ之ヲ支配ス可ク且
本國ノ裁判所ニ非サルハ不動産ノ物權ニ付
キ裁判ヲ為ス可カラス

第六條 警察ノ法律及ヒ國中安寧ノ法律ハ
何人ニ限ラス國內ニ住スル者之ヲ遵守ス可
シ

第七條 法律ノ所缺不備不明ナル時ハ裁判
役公平ノ規則ニ循フ可シ

第八條 此法律ヲ増補シ又ハ變更セシトス
ル時ハ裁判役仲間ノ協議ヲ得可ク又己ム

ヲ得サル時ハ裁判役仲ケ間ヨリ之ヲ申立ツ
可シ

第九條 何人ニ限ラス本國人ハ縱令外國ニ
於テ取結ヒタル契約ノ為メト虽モ本國ノ裁
判所ニ呼出スルヲ得可シ

第十條 本國內ニ住スル外國人又ハ裁判所
ニ呼出シテ受クルヨリ前六月以内ニ本國ヲ
去リタル外國人モ亦本國ノ裁判所ニ呼出ス
ルヲ得可シ但シ被告人ノ居所如何ヲ問ハス
法律上ニ定メタル場合ニ於テ商法裁判所ノ
管轄ヲ受ク可キ時ハ此例ニ非ス

第十一條 又刑法裁判所ハ外國人ノ居所如
何ヲ問ハス其管轄タル輕重ノ罪犯ヲ裁判ス

可シ

第一篇 財産

第一章 財産ノ種類

第十二條 財産ハ動産又ハ不動産ナリトス

第十三條 天然又ハ人工ニ因リ移動ス可カラ
ナル様固着シ之ヲ運轉スル時ハ必ス毀損破
壊ス可キ財産ト其財産ニ付テノ物權トヲ不
動産トス

第十四條 其他ノ財産ハ皆動産ナリトス

第十五條 法律上ニ用フル「モビリエ」エツエ

「モビリエ」ニ「ビアン」ニ「ユウブル」共ニ皆動

谷語ハ共ニ皆動産ヲ指シ云ヒ取テ其差別ア

ルナシ

第十六條 然レモ上地ノ所有者ニ属スル農業

ノ器具及ヒ農業ニ必要ナル獸類並ニ製造所
ノ所有者ニ屬スル製造所ノ器具器物ハ其附
屬スル不動産ヨリ之ヲ分離ス可カラサルヲ
以テ之ヲ不動産ト看做ス可シ

第十七條 財産ニ付テハ其資益ヲ得ル者ニ管
シテ數種ノ權利ヲ生ス可シ但シ其權利ハ左
ノ如シ

第一 所有權

第二 入額所得ノ權

第三 土地ノ權

第四 此債主ノ彼ノ債主ヨリ先キニ償ヲ

得ルノ物權^{「イボテ}レリ^{「クシ}ジ^{「クシ}イ^{「クシ}不動産書入質ノ物權

「イボテ 不動産引留ノ權^{「クシ}クシ

第十八條 人民所有ノ全權ヲ得可キ財産ヲ名

「ミユルク^{「クシ}財産ト云フ

第十九條 所有ノ權ハ官ニ屬シ官ヨリ規則書

ニ定メタル場合ト約束トニ循ヒ人民ニ其入

額所得ノ權ヲ讓リシ財産ヲ名ケ「アラギ」財

産又納貢財産^{「クシ}ビ^{「クシ}ユ^{「クシ}テ^{「クシ}イル^{「クシ}ト云フ

第二十條 寺院ノ所有スル「マーンモルト」讓リ

渡ス可カラ^{「クシ}ハ^{「クシ}ノ^{「クシ}財産ヲ名ケ「ワク」^{「クシ}財産ト云フ

但シ其財産ノ入額所得ノ權ハ規則書ニ定メ

タル約束ヲ以テ人民ニ讓リ渡ス「クシ」得可シ

第二十一條 現今所有者ナク何人ニ限ラス最初

ニ占有セシ者ノ所有トナル可キ財産ヲ名ケ

「自由」財産又「ウ」^{「クシ}財産ト云フ

第二十二條 然レ氏前條ノ財産ハ政府ノ許可ヲ得タル上ニテ規則書ニ定メシ約束ニ循フニ非サレハ之ヲ占有ス可カラス

第二十三條 城寨港口等ノ如キ官ノ財産ハ之ヲ私有ス可カラス

第二十四條 道路橋梁市街等ノ如キ共同資益ノ財産モ亦前條ト同シ

第二章 所有ノ權

第二十五條 所有ノ權トハ財産ヲ用ヒ或ハ之ヲ讓リ渡シ或ハ然ノミナラス之ヲ破滅ス可キ

全權ヲ云フ

第二十六條 財産所有ノ權アル者ハ天然又ハ人エヲ以テ其財産ヨリ生スル諸物並ニ其財

産ニ附加スル諸物ヲ所有スルノ權アリ

第三章 入額所得ノ權

第二十七條 入額所得ノ權トハ他人ノ所有スル財産ヲ用ヒ其資益ヲ得ルノ權ナリ

第二十八條 入額所得ノ權ハ之ヲ讓リ与フル契約又贈遺ニ因リ更ニ之ヲ減ス可キヲ譬ハ

ハ其權ヲ減シテユガージユノ權他人ニ屬スル利益中ニテ己レニ必要ノ部ヲ所得ト為スル身ノミニ屬スル權佛蘭西民法第六百五

條以下ニ及ヒ「アビタシラシ」ノ權他家屋ニ住ス可キ權佛蘭西民法第六百五

第二十九條 入額所得ノ權ハ一時ノモノアリ又ハ永久ノモノアリ

第三十條 人民等ノ間ニ於テハ入額所得ノ權

ヲ必ス一時ノモノト為ス可シ

第三十一條 入額所得ノ權ハ現時既ニ出產セ
シ者ノ為メニ非レハ之ヲ設ケ定ム可カラス
又其權ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ得タル者ノ
死去ニ因リ終ル可シ但シ其死去スル前ニ預
定ノ期限ニ至リシ時ハ拾別ナリトス

第三十二條 然レハ遺囑ノ贈遺ヲ為シテ財產
所有ノ權ヲ「ワク」財產事務宰相ノ管轄タル
公舎ニ与ヘ其入額所得ノ權ヲ一人又ハ數人
及ヒ其宗系ノ遺物相續人ニ与フルヲ得可
シ但シ此場合ニ於テハ入額所得ノ權ヲ得タ
ル一家ノ者盡ク死去シタル後ニ非サレハ其公
舎ニ於テ入額所得ノ權ヲ得可カラス

第三十三條 官ヨリ規則書ノ箇條ニ循ヒ「アラ
ダ」ノ地ノ入額所得ノ權ヲ与ヘタル時ハ其
權ヲ永久ノモノト為ス「ヲ」得可シ

第三十四條 前條ノ場合ニ於テハ入額所得ノ
權ヲ得タル者其全部又ハ一部ヲ更ニ他ニ讓
リ與ヘ又ハ書入質ト為ス「ヲ」得可シ

第三十五條 「ワ」財產事務宰相局ヨリ入額
所得ノ權ヲ得タル者ハ千二百八十四年「サ」
「ル」月七日（西洋紀元千八百六十七年六月十
日）ノ法律ニ循ヒ其權ヲ更ニ他人ニ移ス「ヲ」
得可シ

又其者ハ其權ヲ期限ヲ定ムテ貸与ヘ又ハ質
入ト為ス「ヲ」得可シ

第三十六條 入額所得ノ権ヨリ生スル権利及
ヒ義務ハ之ヲ譲リ與フル證書ノ約束ト左ノ
規則トニ循テ之ヲ規定ス可シ

第三十七條 入額所得者ハ財産ヲ其用法ニ循
ヒ用フ可シ

第三十八條 若シ動産ノ入額所得ノ権ヲ譲リ
與フル時ハ其目錄ヲ作りテ保証人ヲ立テシム
可シ若シ保証人ヲ立ツル能ハサル時ハ動産
ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ國債証券ヲ買入レ其
入額ヲ入額所得者ニ渡ス可シ

第三十九條 入額所得者ハ使用シテ消耗スル
品物ヲ用フルトテ得可シト虽モ其権ノ終ニ
至リ之ト同種ノ品物ヲ還サ、ルヲ得ス

第四十條 入額所得者ハ偶然死シタル獸
類ヲ補フニ増殖シタル獸類ヲ用ヒ猶其
餘分アル時ハ之ヲ己レノ得分ト為スヲ
得可シ

第四十一條 入額所得者ハ己レノ過失ニ非ラス
シテ品物ノ滅盡シ又ハ毀損シタル時其責ニ
任スルヲナシ

第四十二條 入額所得者ハ修理ノ費用ヲ擔當
ス可ク且所有者ニ其費用ヲ出ス可キ者ヲ迫
ル可カラス

第四十三條 入額所得者ハ所有者ノ承諾ヲク
シテ造管又ハ植附ヲ為ス可カラス但シ入額
所得者ハ所有者ノ書面自認誓詞ヲ以テ其承
認

諾ノ証ヲ立ツ可シ

第四十四條 入額所得ノ推ハ預定ノ期限ノ至
リシニ目リ又ハ自カラ其推ヲ拋棄シタルニ
目リ又ハ財産ノ滅盡シタルニ目リ又ハ入額
所得者ノ其財産ヲ毀損シタルニ目リ消散ス
可シ但シ之レカ為メ書入質ノ推アル債主ノ
權利ヲ害ス可カラス

第四十五條 又入額所得ノ推ハ入額所得者ノ
其預定マシ約束ノ執行ハサルニ目リ取消ス
ヲ得可シ但シ之カ為メ書入質ノ推アル債主
ノ權利ヲ害ス可カラス

第四十六條 アラゲル財産ノ入額所得者若シ
其眞賦ヲ納レサル時ハ其推ヲ失フ可シ但シ

之レカ為メ書入質ノ推アル債主ノ權利ヲ害
ス可カラス

第四十七條 官有ノ地ノ入額所得者若シ其地
ニ付テノ租稅ヲ納レサル時ハ其租稅ノ額ニ
充ル迄其地ヲ入額所得ノ推ノ一部ヲ取上ケ
之ヲ賣拂フノミトス

第四十八條 又入額所得者十五年間其財産ヲ
用ヒサル時ハ其推消散ス可シ
納貢地及ヒ「アバヤ」土地ノ種類ノ入額所得者

五年間其地ヲ耕耘セス捨テ置ク時ハ其入額
所得ノ推ヲ失フ規則ニ循テ其推ヲ糶賣ニ為
ス可シ

第四章 土地ノ權利甲ヨリ云ハハ權利

「義務」ト稱ス可キニ曰リ此書中或ハ
譯シテ權利ト云ヒ或ハ記シテ義務ト
云

第四十九條 土地ノ義務トハ此不動産資益ノ
為メ彼不動産ニ負ハシムル義務ヲ云フ
土地ノ義務ハ之ヲ設ケ定ムル証書ト土地ノ
習慣トニ從ヒ規定ス可シ

第五十條 官府又ハ會社ノ造リタル溝渠ノ水ヲ
用フルノ権限ハ其水ヲ灌ク可キ土地ノ大小
ニ准ス可シ但シ此事ニ付キ設ケメル監事局
ニ管スル法律ニ定メシ所ハ格別ナリトス
第五十一條 溝渠ヲ造リシ者ハ其溝渠ノ水ヲ
用ヒ又ハ之ヲ賣ルノ時權アリ

第五十二條 何人ニ限ラス水ヲ取ル場所ヨリ

最モ遠キ土地ノ為メ必要ナル水ヲシテ已レ
ノ土地内ヲ通セシメサル可カラズ但シ之レ
カ為メ裁判所ヨリ定メタル償ヲ得可ク若シ
其償ニ付キ争ノ起ル時ハ裁判所ヨリ可成丈損
害ヲシテ少カラシムル様通水ノ道ヲ設ク可
キ造管ノ方ヲ定ム可シ

然レ氏器械ヲ備ヘ又ハ溝渠ヲ造リ已レノ土
地ニ水ヲ引ク者ハ其下ノ土地ノ所有者ヲシ
テ強テ其水ヲ受ケシム可カラス

第五十三條 家屋ノ下階ノ所有ハ上階ノ墮落
スルヲ防クニ必要ナル造管ヲ為ス可シ
若シ下階ノ所有者家屋ヲ堅牢ナラシムルニ
必要ナル造管ヲ為スヲ肯セサル時ハ其家屋

中ニテ其者ニ属スル部分ヲ賣拂フ可キトヲ
言渡スヲ得可シ

何レノ場合ニ於テモ急速ニ為ス可キ造営ノ
執行ハ経急吟味ノ裁判役ヨリ之ヲ言渡ス
ヲ得可シ

第五十四條 上階ノ所有者ハ下階ノ害トナル
可キ造営ヲ為ス可カラス

第五十五條 下階ノ所有者ハ天下ヲ修復ス可
ク又其者ニ属スルト思料ス可キ梁椽ヲモ修
復ス可シ○上階ノ所有者ハ其階ノ踏歩スル
樓板ヲ修復ス可ク又梯子中ニテ下階ノ所有
者ノ為ノ入用ナラサル所ヨリ上ノ部分ヲ修
復ス可シ

第五十六條 若シ造作ノ破壊スル時ハ下階ノ
所有者已レニ属スル階ヲ修復ス可シ若シ其
修復ヲ為サル時ハ其者ニ属スル階ヲ裁判
所ノ命ニテ賣拂フヲ得可シ

第五十七條 何人ニ限ラス其隣人ヲシテ強テ
塀牆ヲ造ラレム可カラス又其隣人ノ塀牆ノ
一部又ハ其塀牆所在ノ地ヲ強テ已レニ讓ラ
シム可カラス

第五十八條 又塀牆ノ所有者ハ至重ノ原因ア
ルニ非サレハ繞圍ヲ設ケシ隣人ノ土地ヲ害
ス可キ様故ヲニ其塀牆ヲ毀ツ可カラス

第五十九條 何人ニ限ラヌ一ノートル(大約二
百ツク)ト三分二ヨリ少キ距離ニ於テ其隣地

ヲ直視ス可キ窓ヲ造ル可カラス

第六十條 其距離ハ窓ヲ造ル牆壁ノ外面ヨリ之ヲ計リ又ハ縁側及ヒ其他家屋ノ突出セシ部分ノ外部ノ線ヨリ之ヲ計ル可シ

第六十一條 製造所井戸、蒸氣器械及ヒ其他何物ニ限ラス隣地ノ害トナル可キ諸般ノ工業造営ハ規則書ニ定メタル距離ト約束トニ循

ヒ之ヲ設ク可シ

第六十二條 何人ニ限ラス土地ノ所有者ハ兩水及ヒ家内ニ用ヒタル水ヲ其土地又ハ往還ニ注流セシム可シ但シ此事ニ付テハ健康保全ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六十三條 他人ノ所有スル土地ニ周圍ヲ繞

環セラレシ已レノ土地ヨリ往還ニ出ル通行路ヲ設クル權ヲ行フニ付テハ裁判所ヨリ其通行路ヲ設クル權ヲ行フ方法ト其權ヲ行フニ付キ出ス可キ償高トヲ定ム可シ

第五章 所有ノ權及ヒ物權ヲ得ルノ方法

第六十四條 所有ノ權及ヒ物權ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ得可シ

○義務ノ効

○生存中ノ贈遺

○遺物相続及ヒ遺囑ノ贈遺

○所有者ナキ財産ヲ已レノ有ニ歸スル權
アアツブロンリ

○主ニ因テ從ヲ併ス權アクセツ

○先キ買ヲ為ス權アレアム

○期滿得免ノ權アレスクリ

第一款 義務ノ効

第六十五條 動産及ヒ不動産所有ノ權ハ之ヲ
与フ可キ義務ノ効ニ目リ之ヲ得可シ但シ其
財産義務ヲ負フタル者ノ所有タル時ニ限ル
可シ

第六十六條 又動産ニ付テハ之ヲ引渡ス者其
所有者ニ非サル時ト雖モ正當ノ名義ニテ引
渡ヲ為シ且之ヲ受取ル者モ亦正當ナルニ於
テハ其引渡ニ目リ動産所有ノ權ヲ得可シ但
シ真ノ所有者其動産ヲ失ヒ又ハ之ヲ盜奪セラ

レタル時ハ後ニ之ヲ已レニ取戻サント訴フル
ノ權アリ

第六十七條 不動産ニ付テハ法律上ニ定メタ
ル簿冊登記ノ法式ヲ行フタル上ニ非サレハ
管係ナキ者ニ對シテ其所有ノ權及ヒ其物權
ヲ得タルモノト為ス可カラス

第二款 生存中ノ贈遺

第六十八條 贈遺ト為シタル動産及ヒ不動産
所有ノ權ハ其贈遺ヲ為シタルト之ヲ受ケタ
ルトニ因テ之ヲ得可シ但シ贈遺ノ證書ヲ他
ノ契約書ノ体裁ニ記セサル時ハ贈遺ヲ為シタ
ルト之ヲ受ケタルトテ公正ノ證書ニ記ス可ク若シ之ヲ
記セサル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第六十九條 動産ニ付テハ贈遺ヲ為ス者現ニ之ヲ引渡シ贈遺ヲ受クル者之ヲ受取リタル時ハ公正ノ證書アラスト雖モ其贈遺ヲ成就シタルモノトス

第七十條 若シ贈遺ヲ受クル者ノ之ヲ承諾スル前ニ贈遺者ノ死去シ又ハ行権ノ禁ヲ受クル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第七十一條 死去シタル贈遺者ノ遺物相続人又ハ行権ノ禁ヲ受ケタル贈遺者ノ名代人ハ其贈遺ヲ受クルヲ得可シ

第七十二條 何人ニ限ラス其現時ノ債主ノ害トナル可キ贈遺ヲ為ス可カラズ
第七十三條 不動産ノ贈遺ハ贈遺ノ證書ヲ簿

冊ニ登記ス可キ規則ニ記シタル所ノ外他人ニ對シテ其効ナカル可シ

第七十四條 何人ニ限ラス其債主ノ權ヲ害シ「ワクウ」地ノ名義ヲ以テ其財産ヲ人ニ譲リ渡ス可カラサル者ト定ム可カラズ若シ斯ノ如ク定ムルト雖モ其効ナカル可シ

第三款 遺物相続

第七十五條 遺物相続ハ死者ノ屬スル國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

第七十六條 然レ「ワク」地又ハ納貢地ノ入額所得ノ權ヲ相續スル權利ハ本國ノ法律ニ循テ之ヲ規定ス可シ

第七十七條 遺囑贈遺ヲ為スノ權及ヒ遺囑贈

遺證書ノ書法ハ本人ノ屬スル國ノ法律ニ循
テ之ヲ規定ス可シ

不動産ニ付テハ遺物相續人ノ為メ財産ノ一
部分ヲ遺シ置ク事及ヒ遺囑贈遺者ノ隨意ニ
為スヲ得可キ財産ノ部分ヲ定ムル事等ノ為
メ不動産所有ノ權ヲ解除スルノ規則アリト
雖モ正実ニ其不動産ヲ買入レタル者ノ權利
及ヒ其不動産ニ付キ書入質ノ權アル債主ノ
權利ヲ害ス可カラズ

第四款

所有者ナキ財産ヲ已レノ有

ニ歸スル權

第七十八條 所有者ナキ財産ヲ已レノ有ニ歸
スル權ニ因リ何人ニ限ラス所有者ナキ財産ヲ

最初ニ已レノ有ト為シタル者ハ其所有ノ權
ヲ得可シ

第七十九條 未タ開墾セサル官地ニ付テハ官
ノ允許ヲ得タル上ニテ地方規則ニ循ヒアハ
テシテ設ケ定ムルニ非サレハ之ヲ所有ト為
ス可カラズ

第八十條 然レ氏右ノ地ヲ開墾シ又ハ之ニ植
附ヲ為シ又ハ之ニ家屋ヲ造築セシ者ハ其開
墾植附造営ヲ為シタル部分ノ所有者トナル
可シ然レ氏最初ノ十五年間ニ於テハ其所有
者トナリシ者五年間之ヲ用ヒサレテ因リ其
所有ノ權ヲ失フ可シ

第八十一條 以前ノ所有者ヲ知ル可カラサル

埋没セシ財貨ハ其土地ノ所有者ニ屬ス可シ
第八十二條 若シ埋没セシ財貨ヲ見出セシ上
地ニ其所有者アラサル時ハ之ヲ見出セシ者
ニ其財貨ヲ屬ス可シ但シ何レノ場合ニ於テモ
規則ニ循セ官ニ税額ヲ納メシム可シ
第八十三條 捕魚狩獵ニ管スル權利ハ別段ノ
規則ヲ以テ之ヲ規定ス

第五款 主ニ目テ從ヲ併スノ權

第八十四條 河川ノ傍側ニ生スル漸積ノ地ハ
其傍側ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ
第八十五條 河川ノ為メ移去セラレタル土地
及ヒ河川中ニ生シタル島洲ノ所有者ノ權ハ千
二百七十四年ノ命令書ニ循テ規定ス可シ

第八十六條 湖沼ノ漸積ノ地ハ其湖沼ノ所有
者ニ屬ス可シ

第八十七條 海岸ノ漸積ノ地ハ官ニ屬ス可シ

第八十八條 所有地ノ境界ヲ以前ニ復スル為
メノ外海ヲ埋立ツルヲ許サス

第八十九條 土地ノ所有者ノ明許ヲ得テ別段
其所有者ノ權利ヲ保テ置ク可キ約束ナク其
地ニ造営ヲ為シ又ハ植附ヲ為シタル者ハ其
造営ヲ為シタル土地又ハ植附ヲ為シタル土
地ノ部分ノ所有者トナル可シ

第九十條 土地ノ所有者別段已レノ權利ヲ保
テ置ク可キ約束ナクシテ其造営又ハ植附ヲ為
ス可キヲ明許シタルノ證アラサル時ハ唯

其土地ヲ貸渡シタルト看做シ其所有者ハ其
造営ヲ毀テ又ハ樹木ヲ抜キ之ヲ移去スルヲ
要ノ或ハ其品物ノ價ト工價トヲ償ヒ其造営
又ハ植附ヲ已レノ有ニ歸スルト自由ナリト
ス

第九十一條 若シ其造営又ハ植附ヲ為シタル
者自カラ其土地ノ所有者タルヲ信思ス可キ
道理アル時ハ其造営又ハ植附ヲ取除カシム
可カラス但シ此場合ニ於テハ真ノ所有者評
價人ノ説ニ從ヒ其土地ノ價ヲ増シタル高ヲ
償フテ其造営又ハ植附ヲ已レノ有ニ歸スル
トヲ得可シ

第九十二條 若シ所有者ヲ異ニスルニ箇ノ動

産互ニ連合シテ之ヲ離分スル時ハ必ス損害
ヲ生ス可キニ於テハ裁判所ヨリ公平ノ規則
ニ循ヒ其動産ヲ離分スルニ付テノ損害ト所
有者双方ノ模様及ヒ其正実ナルヤ否トニ注
意シ其離分ヲ言渡ス可シ

第六款 不動産ニ付テノ先買ノ權

第九十三條 造営ヲ為シ又ハ植附ヲ為スヲ承
諾シテ已レノ地ヲ貸渡シタル者ハ未タ其貸
渡期限ノ終リニ至ラスト雖モ其買主ニ望ミ通
リノ價高ヲ拂ヒ先買ヲ為スノ權アリ

第九十四條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有ス
ル者ハ其共通ノ所有者仲ケ間ヨリ賣リタル
部分ヲ已レヨリ以前ニ先買ノ權ヲ得タル者ヲ

除クノ外總テ其他ノ者ヨリ先キニ買取ルノ権アリ但シ之レカ為メニハ其價高ト正當ナル費用高トヲ拂フ可シ

第九十五條 他人ト共通シテ不動産ヲ所有スル者ハ嘗テ其共通ノ所有者仲ケ間ニシテ當時其買入人トナリシ者ニ對シ先買ノ権ヲ行フヲ得可シ但シ當時ノ共通ノ所有者仲ケ間ヨリ其先買ノ権ニ對シ盜益ヲ得可キヲ求ムル時ハ其資益ヲ得セシメサル可カラス

第九十六條 右先買ノ権ハ生存中ノ贈遺ヲ得タル者ニ對シ又ハ賣買交換ニ非サル方法ニ對シ不動産ヲ得タル者ニ對シ之ヲ行フ可カラス

第九十七條 共通シタル不動産ノ部分ニ付キコクコノ設ケニ對シ人ニ讓リ渡ス可カラサル所有ノ権ヲ得タル者ハ先買ノ権ヲ行フ可カラス然レ氏其所有ノ権ヲ授與スル者ハ其授與ノ為メ先買ノ権ヲ行フヲ得可シ

第九十八條 又不動産ヲ共通シテ所有スル者其買主ノ共通所有ノ権ヲ認ムル所為ヲ行フタル時ハ先買ノ権ヲ行フ可カラス

第九十九條 不動産ニ隣レル地ノ所有者ハ先買ノ権ヲ行フ可キ者ニ人ニ次キテ其不動産先買ノ権ヲ行フヲ得可シ

第一百條 裁判所ニ於テ賣拂ヲ為シタル時ハ先買ノ権ヲ行フ可カラス

第百一條 何レノ場合ニ於テモ先買ノ権アル者ハ其権ヲ行フヤ否ノ問ヲ受ケタルヨリ二十四時内ニ不動産ヲ引取ル可キノ意ヲ表ス可ク若シ其定期内ニ其意ヲ表セサル時ハ先買ノ権ヲ失フ可シ但シ其者ノ居所ノ隔リタル時ハ右二十四時ノ期限ニ相當ノ猶豫ヲ加フ可シ

第七款 期滿得免ノ権

第百二條 財産所有ヲ権ト不動産書入質ノ権ヲ除キタル以外ノ物権トハ明カニ其所有者タル名義ヲ以テ五年間絶ヘス公ケニ妨ナシ其財産ヲ自身ニ占有シ又ハ名代人ヲシテ占有セシメタルニ回リ之ヲ得可シ但シ之レカ為

メニハ其占有者正当ノ名義アルコトヲ必要トシ若シ其占有者ニ正当ノ名義ナキ時ハ十五年間占有セシ後ニ非サレハ其所有ノ権ト其他ノ物権トヲ得可カラス

第百三條 期滿所得ノ権ヲ行フ者ハ其財産ヲ已レニ譲リシ者ノ占有期限ヲ申立テ自己ノ利益ト為スコトヲ得可シ

第百四條 持ニ定メタル既往ノ時ト現今トニ於テ財産ヲ占有シタルノ証アル時ハ其中間ノ時ニ於テモ亦之ヲ占有シタルト看做ス可シ但シ之ニ反シタル証アル時ハ格別ナリトス

第百五條 納貢地ノ占有者其地ヲ開墾スル時

ハ五十年間之ヲ占有セタルニ因リ其地ノ入額所得ノ權ヲ得可シ

第百六條 何人ニ限ラス已レノ有スル名義又ハ已レニ財産ヲ譲リシ者ノ有シタル名義ニ及キ
期満所得ノ權ヲ得可カラス故ニ貸銀ヲ出シ
テ土地ヲ借受タル者入額所得者預リ人借主
又ハ此等ノ者ノ遺物相続人ハ其財産ニ付キ
期満所得ノ權ヲ得可カラス

第百七條 然レモ正実ノ不動産書入質ノ權ヲ
有スル債主ハ之ヲ質物ト為シタル負債者ノ
五十年間之ヲ占有セシ旨ヲ申立テ他人ノ訴ヲ
抗拒スルヲ得可シ但シ之レカ為メニハ右ノ
債主其負債者ヲ不動産ノ真ノ所有者ナリト

思フ可キ道理アルノ証ヲ立ツ可シ

第百八條 何人ニ限ラス預メ期満得免ノ權ヲ
拋棄ス可カラス

然レモ已レノ權ヲ自由ニ行フヲ得可キ者ハ
既ニ得タル期満得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得
可シ

第百九條 若シ期満得免ノ權ノ得可キ定期間ニ
妨ヲ受テタル時ハ其妨テヲ受テタルヨリ
以前ニ占有シタル時間ヲ期限ノ算計中ニ加
フ可カラス

第百十條 占有者已レノ所為ニ因ルト他人ノ所
為ニ因ルトヲ問ハス若シ其占有ノ權ヲ失フ
タル時ハ期満得免ノ權ヲ得可キ定期間ニ妨

ケヲ受ケタルモノトス可シ

第百十一條 若シ真ノ所有者占有者ヲ裁判所

ニ呼出シ又ハ占有者ニ法式ニ適フタル時ハ

書ヲ送り已レノ權利ヲ復セント為シタル時ハ

經令其儘ニテ其訴訟ヲ継続ニ行フナリト

雖モ占有者期滿得免ノ權ヲ得可キ定期間ニ

妨ケラ受ケタルモノト為ス可シ但シ真ノ所

有者其訴訟ヲ為ス可キ期限ヲ經過セシメタ

ルニ因リ終ニ其訴訟ヲ為ス可キ權ヲ失フタ

ル時ハ格別ナリトス

第百十二條 本以ト迄代以トノ間ニ於テハ終

テ其各代委任ノ証書ニ記スル諸件ニ付キ期

滿得免ノ權ヲ得可カラス

第百十三條 不動産ニ付テノ期滿所得ノ權ハ

法律ニ循ヒ已レノ權利ヲ行フニ能ハサル者ニ對

シ之ヲ得可カラス

第百十四條 又前條ニ記スル所ノ外五年以上

ノ期滿得免ノ權ハ已レノ權利ヲ行フニ能ハサル

者ニ對シ之ヲ得可カラス

第百十五條 盜奪セラレシ品物又ハ遺失シタ

ル品物ノ所有者ニ對シテハ三年ノ時間ヲ以

テ期滿所得ノ權ヲ得可シ

第百十六條 然レモ盜奪物又ハ遺失物ヲ正實

ノ意ヲ以テ其類ノ品物ヲ賣買スル商人ヨリ

買入レタル者又ハ公ケノ市場ニ於テ之ヲ買

入レタル者ハ之ヲ取戻サントスル真ノ所有

者ニ對シ已レノ拂フタル代金ノ償還ヲ得ント
要ムルノ權アリ

第六章 所有ノ權及ヒ物權ヲ失フ事

第百十七條 何人ニ限ラス左ノ場合ニ於ケル
外ハ財産所有ノ權ヲ失フコトナル可シ

第一 其所有ノ權他人ニ屬スルノ証分明
ナル時

第二 法律上ニ定メタル場合ト法式トニ
循ヒ債主ノ求メニ回リ財産所有ノ權ヲ
奪ハル、時

第三 共同資益ノ為メ財産所有ノ權ヲ奪
ハル、時

第百十八條 納貢地ノ入額所得ノ權ヲ得タル

者又ハ「アバグー」ト為シタル地ノ入額所得ノ
權ヲ得タル者ハ道路溝渠ヲ造リ及ヒ其他公
同資益ノ工業ヲ為スニ必要ナル土地ヲ償ヲ
得スシテ拋棄ス可シ但シ其入額所得ノ權ヲ
設ケ定ムル証書ニ別段ノ契約ヲ記スル時ハ
此例ニ非ス

第百十九條 前条ニ記シタル者ノ外総テ物權
ヲ有スル者又ハ公正ノ証書ヲ有スル不動産
ノ借主又ハ退法ノ期限ニ至ラサル前ニ強テ
退去セシメラレタル不動産ノ借主ハ預メ至
當ノ償ヲ得可シ

第百二十條 然レモ不動産ヲ人ニ譲リ渡ス可
カラサル「マーンモルト」ノ公舎ハ土地ヲ以テ

其償ヲ得可シ○又納貢地又ハ「アバギー」ノ入
額所得者其地ノ四分ノ一以上ノ入額所得ノ
權ヲ失フタル時ハ土地ヲ以テ其償ヲ得可シ
第百二十一條 公同資益ノ為メ不動産所有ノ
權ヲ奪フ「ハ」命令書ヲ以テ之ヲ言渡ス可ク
其命令書ニハ假リニ左ノ諸件ヲ定ム可シ
第百一 主タル工業ト之カ為メ必要ナル附
後ノ工業トヲ為スニ入用ナル土地ノ太
サ
第百二 都會ニ於テハ右土地ノ畫線外ニ在
テ堅牢平安ナル家屋ヲ造ル可カラサル
一「^ハ區」^ル地但シ其地モ亦所有ノ權ヲ奪フ
土地ノ中ニ保含ス可キモノナリ

第百二十二條 右ノ命令書ハ裁判言渡書ヲ貼
附スル法式ヲ以テ其州ノ「^コ」^ニ「^エ」^ル廳ト
裁判所ト所有ノ權ヲ奪フ可キ建物トニ之ヲ
貼附ス可シ但シ其貼附書ニハ所有ノ權ヲ奪
フ可キ不動産ノ圖面ヲ藏メタル場所ヲ記入
ス可シ
又右ノ命令書ハ新聞紙ニ記入シテ公ケニ為
ス可シ
第百二十三條 右圖面ハ八日間其州ノ「^コ」^ニ「^エ」^ル
「^リ」^エ「^ル」廳ニ藏メ置キ且其間管係アル者ノ申
立ラ書留ム可キ調書ヲ作ル可シ
第百二十四條 右ノ申立ハ之ヲ調書ニ書留メ
且規則ニ循テ其裁断ヲ為ス可シ

第百二十五條 所有ノ權ヲ奪フ可キ各區ノ上
地ノ確定ノ圖面及ヒ行政局ヨリ出サントス
ル償高ノ書付ハ行政局ヨリ之ヲ共知ル所ノ
管係人又ハ願出シタル管係人ニ送ル可ク又
其圖面及ヒ書付ハ前ニ記シタル法式ニ循ヒ
之ヲ貼附ス可シ

第百二十六條 所有ノ權ヲ奪ハル可キ土地ノ
所有者ハ八日內ニ入額所得者借主及ヒ其他
ノ管係人ヲ右行政局ニ告知ス可シ若シ其告
知ヲ為サハル時ハ此等ノ者ニ為ス可キ償ヲ
已レ一身ニ擔當ス可シ

第百二十七條 右貼附ヲ為シタル後ハ何時ニ
テモ行政局ヨリ土地ノ借主ニ退去ノ旨ヲ命

スルヲ得可シ但シ貸借証書ニ別段ノ約束
アル時ハ例外ナリトス

第百二十八條 右退去ニ付キ土地ノ所有者ノ
為メ損失ヲ生スル時ハ官ヨリ渡ス所ノ償高
中ニ其損失ノ償ヲ保含ス可シ

第百二十九條 若シ行政局ニテ最終ノ貼附ノ
時ヨリ六月內ニ管係人ト協議シテ財産徵収
評價人ヲ招集セシメサル時ハ管係人ヨリ某
招集ヲ裁判所ニ求ムルヲ得可シ

第百三十條 所有ノ權ヲ奪フ可キ財産ニ付キ争
ノ起ルヲアリト虽モ其所有ノ權ヲ奪フ手續
ヲ止ム可カラズ但シ裁判所ニテハ最モ先キニ訴
出シタル者ノ求メニ回リ其財産ニ管係ア

リト述フル者ノ権利ヲ保護スル處置ヲ言渡
スヲ得可シ

第百三十一條 管係人ハ財産徵收價人ノ面前

ニ出席ス可キ呼出狀ヲ受取りタルヨリ八日

ニ出席ス可ク其居所ノ距離ノ為メ別段猶豫

ヲ許ルス可カラス但シ其呼出狀ノ費用ハ財

産所有ノ權ヲ奪フ者吊テ行政之ヲ擔當ス可

シ

第百三十二條 若シ管係人ノ出席セサル時ハ

其權利ヲ取糾ニタル上ニテ抗辯ノ終確定ノ

裁断ヲ為ス可シ

第百三十三條 管係人ハ價高ノ不当ナルヲ述

フル為メノ外其裁断ノ取消ヲ訴出ス可カラ

ス

第百三十四條 行政局ヨリ其徵收スル土地ノ

真ノ所有者タルニ疑ヒナキヲ思料セシ者

其價ヲ與ヘタル上ハ他ヨリ其處置ノ不当ナ

ル旨ヲ訴出ス可カラス

第百三十五條 評價人ノ定メタル價高ハ遅ク

トモ裁断ノ時ヨリ三月内ニ之ヲ渡ス可ク又

何レノ場合ニ於テモ行政局ニテ土地ヲ徵收ス

ル以前ニ其價高ヲ渡ス可シ

第百三十六條 徵收ニ残ニタル區地ニ接隣セ

シ土地ノ所有者ハ行政局ノ定メタル價ヲ以

テ其區地ヲ買入ル可キヤ否ヲ八日內ニ申出

ツ可キ旨ノ達ヲ受ケ若シ之ヲ買入レザルニ

於テハ其所有者ヲ評價人ノ面前ニ呼出ヒシ
上前ニ記シタル法式ニ循ヒ其所有者ノ權ヲ奪
フ可シ

第百三十七條 都會内ニテ土地ヲ所有スル者
其所有ノ權ヲ奪ハレ且其家屋建物モ亦破毀
ス可キニ於テハ徵收シ殘シタル土地ヲ保ツ
ニ及ハス

第百三十八條 毎歲裁判所ニ於テ一州毎ニ上
地徵收評價人七十二名ヲ指定ム可シ

第百三十九條 各會議ノ評價人ノ負數ハ裁判
席ニテ闔列ニ為シタル者六名ニシテ其外ニ
輔助ノ評價人四名アル可シ但シ其輔助ノ評
價人ハ正負ノ評價人缺席ニテ其名代ヲ為ス

時ニ非レハ投言ヲ為ス可カラス

第百四十條 右ノ評價人ハ管係人ト同一ノ法
式ヲ以テ之ヲ呼出シ裁判席ヲ闔クヨリ四十
八時前ニ其姓名ヲ管係人ニ告知ス可シ

第百四十一條 裁判官一名其書記官ノ助ヲ得
テ評價人ノ評價ニ從ヒ裁判ヲ言渡ス可
シ

第百四十二條 評價人ハ管係本人又ハ其名
代人ノ申立ル所ヲ別段ノ手續ナク裁斷ス
可シ

第百四十三條 其裁斷ハ抗傳者ヨリ故障ヲ申
立ツ可カラス又控訴ヲ為ス可カラス

律及法
民法草案

卷二

第二篇 義務ノ事

第一章 總テ義務ノ事

第百四十四條 義務トハ法律上ニテ確定スル
務ヲ云ヒ其目的ハ義務ヲ負ヒシ者ヲシテ特
ニ定メタル事ヲ為サシメ又ハ特ニ定メタル
事ヲ為スヲ止メシメ以テ他人ノ為メ益ヲ得
セシムルニ在リ

第百四十五條 物ヲ典フ可キ義務アル時ハ其
義務ヲ負フタル者ニ屬スル物ノ所有ノ權ヲ
当然轉移ス可シ

第百四十六條 人ノ為メ物權ヲ設ケ為ス可キ
ノ義務アル時ハ亦其物權ヲ轉移ス可シ但シ
之レカ為メ一ノ債主他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ

得ルノ權 不動産書入質ノ權 財産引當ノ權ヲ
害ス可カラス

第百四十七條 義務ノ中ニ契約ヨリ生スルモ
ノアリ又ハ所為ヨリ生スルモノアリ

第百四十八條 確實ニシテ法ニ適シタル原由
アルニ非レハ義務ナシトス

第百四十九條 義務ノ目的ハ人ノ為ニ能フ可
ク且法ニ適セシ所為タル可ク若シ然ラサル
時ハ義務ノ効ナカル可シ又物ヲ與フ可キ義
務アル時ハ其物賣買ヲ為シ得可ク且其種類
ハ必ス之ヲ定メ其品質モ亦模様ニ從ヒ之ヲ
定メ得可キ物タル可シ

第百五十條 若シ二箇中ノ一ヲ擇ムヲ得可キ

義務アル時ハ義務ヲ負フタル者之ヲ擇ムヲ
得可シ但シ法律又ハ契約上ニ別段ノ定メ
アル時ハ格別ナリトス

第百五十一條 若シ義務ヲ行フ方法中ノ一箇
ヲ為シ能ハサルニ至リシ時ハ其他ノ方法ヲ
以テ義務ヲ行フ可シ

第百五十二條 若シ一箇ノ義務ヲ行ハサル時
ハ其過代トシテ更ニ他ノ義務ヲ行フ可キヲ
シ法律上ニ定メ又ハ契約上ニ定メタル時ハ
義務ヲ行ハシム可キ者之ヲ行フ可キ者ヲシ
テ主タル義務ヲ行ハシメ或ハ過代ノ義務ヲ
行ハシムルヲ自由ナリトス然レモ義務ヲ行
フ可キ者主タル義務ヲ相違ナク執行ノ時ハ

義務ヲ行ハシム可キ者之ニ代ヘテ過代ノ義務
ヲ行ハシム可カラズ但シ主タル義務ヲ行フヲ遅
延セシノニニ回リ過代ノ義務ヲ行ハシム可
キノ言渡アル時ハ格別ナリトス

第百五十三條 若シ義務ヲ行ハシム可キ者前
條ニ記シタル擇ミヲ為シ得可キ場合ニ於テ
義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ回リ之ヲ行フ方
法中ノ一箇ヲ為シ能ハサルニ至リ且時ハ義
務ヲ行ハシム可キ者其他ノ為シ能フ可キ方
法ヲ以テ其義務ヲ行ハシメ又ハ右一箇ノ方
法ヲ為サシムル能ハサルヨリ生シタル損失
ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス

第百五十四條 若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失

ニ回リニ箇ノ方法ヲ共ニ為ル能ハサルニ至
リシ片ハ義務ヲ行ハシム可キ者甲ノ方法ヲ
為サレムルヲ能ハサルニ付テノ損失ノ償ヲ
得又ハ乙ノ方法ヲ為サシムルヲ能ハサルニ
付テノ損失ノ償ヲ得ルヲ自由ナリトス

第百五十五條 若シ有期ノ義務ナル片ハ義務
ヲ行フ可キ者其期ニ至ラサル前ニ義務ヲ行
フヲ得可シ但シ法律ノ趣意又ハ契約ノ目
的ニ及ビシタル片ハ格別ナリトス

第百五十六條 若シ義務ヲ行フ可キ者家資方
散ヲ為シ又ハ己レノ所為ニ回リ義務ヲ行フ
ニ付テノ保証ヲ減損シタル片ハ有期ノ義務
ト雖モ直ニ之ヲ行ハサレヲ得ス

第百五十七條 義務中に到来ノ事件又ハ未必
ノ事件ニ當スルモノアリ或ハ其事件ニ目ヲ
義務ヲ生シ或ハ義務ヲ確定シ或ハ義務ノ生
スルヲ防キ或ハ義務ヲ消散セシム
第百五十八條 未必ノ事件ノ生スルハ義務ヲ
解除ス可キ約束アル場合ニ於テ其事件ノ確
定トナルハハ義務ノ知ヲ失ヒ又ハ義務ヲ取
消ス可シ又未必ノ事件ノ生スルニ至ル迄義
務ノ執行ヲ停止ス可キ約束アル場合ニ於テ
其事件ノ確定トナルハハ初メヨリ其約束ヲ
為サザルト同視ス可シ
第百五十九條 未必ノ事件ノ現ニ生シタルハ
ハ義務ノ其義務ヨリ生スル權利トテ嘗テ其

事件ヲ預料セシメヨリ存在シタルモノト看
做シ又ハ其時ヨリ知ナキモノト看做ス可シ
第百六十條 義務ヲ生セシム可キ事件ノ現ニ
生スル前ニ其義務ヲ執行ヲ能ハサルニ至リ
シハハ其事件ノ現ニ生スルヲアリト虽モ其
知ナカル可シ

第百六十一條 義務ヲ生セシムル契約ニ因リ
其義務ヲ行ハシム可キ者数人物ヲ受取ル為
ノ互相ノ名代ノ權ヲ互ニ授附スルハ其数
人ヲ連帶シテ義務ヲ行ハシム可キモノトス
但シ此場合ニ於テハ名代ノ規則ニ循フ可
シ

第百六十二條 義務ヲ行フ可キ者数人連帶シ

タルトヲ契約ニ定メ又ハ法律上ニ定メタル
片ノ外ハ其義務ヲ行フ可キ各人其義務ノ全
部ノ已レニ擔當スルニ及ハス

第百六十三條 若シ契約又ハ法律上ニ義務ヲ
行フ可キ者數人ノ連帶シタルトヲ定メタル
片ハ其數人ヲ互相ノ保証人ナリト看做シ且
物ヲ渡ス為メ互相ノ名代人ナリト看做ス可
シ

第百六十四條 前條ノ場合ニ於テハ保証ノ契
約及ヒ名代リ契約ノ規則ヲ通シ用フ可シ

第百六十五條 義務ノ行ハレム可キ者ハ連帶
シテ義務ヲ行フ可キ者數人ヲ同時ニ誣ヘ又
ハ各自ニ誣フルト自由ナリトス但シ其數人

中ニ有期ノ義務ヲ負フタル者又ハ別段ノ約
束ヲ為シタル者アル片ハ格別ナリトス

第百六十六條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人
中ノ一人ニ對シテ義務ヲ行フ可キノ催促ヲ為
シ且之ヲ誣フル片ハ其他ノ連帶シタル者ニ
對シテ其催促及ヒ誣ノ効アリトス

第百六十七條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人
中ノ一人ハ已レノ所為ニ因リ他ノ者ノ義務
ヲ重劇ナラレム可カラス

第百六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ各人
ハ已レ一身ノ固有ノ權利ト他ノ者ト共通シ
テ有スル權利トヲ申立テ原告ト誣ニ抗拒ス
ルトヲ得可シ

第百六十九条 連帶シテ義務ヲ行フ可キ教人
中ノ一人其義務ヲ相殺スルヲ得タルト虽モ
連帶セシ他ノ者其旨ヲ申立テ原告ノ訴ニ抗
拒ス可カラス○又其教人中ノ一人其義務ヲ
權利ト混同スルヲ得タルト虽モ連帶セシ他
ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部分ヲ減セ
ニト申立ルヲ得可キノコトス
第百七十条 又連帶シテ義務ヲ行フ可キ教人
中ノ一人其義務ノ釈放ヲ得タルト虽モ連帶
シタル他ノ者ハ其一人ノ擔當スル義務ノ部
分ノ釈放ヲ申立ルヲ得可キノコトス但シ該
義務ノ全部ノ釈放ヲ得タル旨ヲ申立ルニハ其
証アルヲ必要トス

第百七十一条 連帶シテ義務ヲ行フ可キ教人
中ノ一人自カラ其義務ヲ尽クシ又ハ其義務
ヲ權利ト混同シタルハ連帶シタル他ノ教
人ニ對シ各其擔當ス可キ部分ヲ已レニ償ハ
シム可キノ訴ヲ為スヲ得可シ○若シ其教
人中ニ其償ヲ為スヲ能ハサル者アルハ其
者ノ部分ヲ平等ニ他ノ者ニ割附ク可シ
第百七十二條 若シ事柄ノ種類ニ因リ又ハ該
義務ノ目的ニ因リ教人ニテ其義務ノ分ヲ行フ
丁能ハサルハ連帶シタル各人其義務ノ全
部ヲ擔當ス可シ但シ其全部ヲ自カラ尽クシ
タル者ハ他ノ者ニ對シ其償ヲ得可キノ訴ヲ
為スヲ得可シ

第百七十三條 若し義務ヲ行フ可キ者其義務
ノ一部ヲ行フヲ肯セサル内ハ義務ヲ行ハ
シム可キ者損失ノ償ヲ得テ契約ノ取消ヲ要
メヌハ其行ハサル義務ノ一部ニ付テノ損失
ノ償ヲ要ムルヲ自由ナリトス

第百七十四條 然レモ義務ヲ行ハシム可キ者
其時ノ模様ニ因リ義務ヲ行フ可キ者ノ費
用ヲ以テ其者ヲ擔當セシムヲ行フ可キ裁判
所ノ允許ヲ得ヌハ契約ニ背キ作リシ物ヲ毀
ツ可キ裁判所ノ允許ヲ得可シ

第百七十五條 特ニ定メタル物件ヲ渡ス可キ
義務アリテ其契約ヲ為シタル内又ハ其契約
ヲ為シタル後其義務ヲ行フ可キ者右ノ物件

ヲ所有シ且ツ其物件ニ付キ別ニ物權ヲ得タ
ル者アラサル内ハ縱令義務ヲ行フ可キ者其
物件ヲ渡スルヲ肯セストモ其義務ヲ行ハシ
ム可キ者裁判所ノ允許ヲ以テ其物件ヲ已レ
ノ有ト為ストヲ得ヘシ

第百七十六條 不動産所有ノ權ヲ移ス契約ヲ
取消ストモ其内各入質ノ權ヲ官署ノ簿冊ニ記
入セシメタル債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第百七十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因
リ其義務ノ全部又ハ一部ヲ行フヲナク又ハ
之ニ行フヲ遅延シタル内ノ外ハ其者ヲシ
テ損失ノ償ヲ為サシム可カラス

第百七十八條 又義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ

之ヲ行フヘキ者ニ其催促ヲ為シタル上ニ亦
サレハ損失ノ償ヲ為サレハ可カラス
第百七十九条 其損失ノ償高ハ義務ヲ行ハシ
ム可キ者ノ受ケタル損失タル益トラ合
算セシ高タルハ但し右損失ノ義務ヲ行ハ
サルヨリ直クニ生ヤレ所ノモノニ限ル可シ
第百八十条 又義務ヲ行フ可キ者ニ詐偽アラ
サル片ハ其損失ノ償高ヲ初メ契約ヲ結ビ時当
然預料シ得タル外ノミニ限ル可シ
第百八十一条 契約又ハ法律上ニ於テ義務ヲ
行ハサルニ付テノ損失償ノ高ヲ定メタル片
裁判後其高ヲ増減ス可カラス
第百八十二条 若シ金高ヲ渡ス可キ義務ヲ行

ハサル片ハ之ヲ裁判所ニ訴出セシ日ヨリ其
利息ヲ拂フ可シ但し契約又ハ商業上ノ習慣
又ハ法律上ニ別段ノ定メアル片ハ此例ニ亦
ス
第百八十三条 其利息ノ高ハ民法上ノ事ニ付
テハ裁判後金銀ノ相場ニ從ヒ之ヲ定ム可シ
但し其利息高ハ百分ノ十二ニ過ク可カラス
第百八十四条 商法上ノ事ニ付テハ其利息高
ヲ常ニ百分ノ十二ト為ス可シ
第百八十五条 契約ニテ定ムル利息高ハ百分
ノ十二ニ過ク可カラス
第百八十六条 一年ニ足ラサル時間ノ利息ニ
付ケハ更ニ其利息ノ利息ヲ得可カラス又之

ヲ得シト訴フ可カラス

第百八十七條 然レモ商業取引ノ利息高ハ各地ノ相場ニ從テ変更スルヲ得可ク又其取引ニ於テ利息高ク元金ト為シ更ニ其利息ヲ得ルハ商業ノ習慣ニ從テ之ヲ為ス可シ

第二章 契約ヨリ生スル義務

第百八十八條 義務ヲ負フ可キ者ニ契約ヲ為シ得ルノ権アリテ且其者適理ノ承諾ヲ為シタルニ依ラレハ契約ヨリシテ義務ヲ生スルコトナカル可シ

第百八十九條 契約ヲ為シ得ルノ権ハ特ニ定メタル契約ノ種類ニ限ルモノアリ又ハ種類ノ如何ナルヲ問ハス縱テノ契約ニ管スルモノアリ

第百九十条 特ニ種類ヲ定メタル契約ヲ得ルノ権ト諸般ノ契約ヲ

其契約ヲ為ス人ノ本国ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス可シ

第百九十一条 若シ契約ヲ為ス者ニ其契約ヲ為シ得可キノ権アラサルハ縱令其契約ノ為メ其者ニ損害ノ生スルコトナシト虽モ其契約ノ効ナカル可シ○契約ヲ為シ得可キノ権アラサル者其契約ヲ為シタルニ付キ之ヲ取消シタルハ其権アル一方ノ者其契約ノ如ク執行ヲタルニ因リ其権ナキ者ノ已ニ得タル利益ノシテ其権アル者ニ算還ス可シ

第百九十二条 契約ヲ為シ得ルノ権アル者ハ其權ナキ一方ノ者ニ對シ其契約ノ効ナキ旨ヲ申立テ其者ノ訴ニ抗拒ス可カラス

第百九十三条 錯誤ニテ承諾ヲ為シ又ハ暴行詭欺ニ因リ承諾ヲ為サレノタル片ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第百九十四条 契約ヲ為スニ付テノ要領ヲ錯誤シ承諾ヲ為シタル片ハ其承諾ノ効ナカル可シ

第百九十五条 又暴行ヲ以テ承諾取消ノ原因ト為スニハ精神ノ靜定セシ人ヲ以テ其心ヲ惑動セシメ畏懼ノ念ヲ生セシム可キ暴動ノ片ニ限ル可シ但シ此事ニ付テハ其者ノ年齢男女

模様等ニ注意ス可シ

第百九十六条 甲者ヨリ乙者ニ對シ詭欺ヲ為シタルニ非サレハ乙者苟モ初メヨリ契約ヲ為スヲ承諾セサル可キト明白ナル片ハ其詭欺ヲ以テ承諾ヲ取消スノ原因ト為ス可シ

第百九十七条 疾病酩酊又ハ其他ノ偶然ノ模様ハ裁判所ニ於テ承諾ヲ取消ス原因ナリト看做スヲ得可シ

第百九十八条 當然ノ承諾ヲ為サレル旨ヲ証シ得タル者ハ其契約ヲ執行セ又ハ其取消ヲ訴フルト自由ナリトス

第百九十九条 不動産所有ノ權ヲ移ス契約ヲ取消スト虽氏唇入質ノ權ヲ官署ノ簿冊ニ記

入セシメタル債主ノ權利ヲ害ス可カラズ但
シ其債主ノ正実ナル片ニ限ル可シ

第二百條 若シ甲者シ者ヨリ名代ノ証昏ヲ得
ルナリトシ乙者ノ為メ丙者ト契約ヲ為シタル
片ハ乙者其契約ヲ確定シ又ハ之ヲ許認スル
ヲ肯セサルト自由ナリトス

第二百一條 凡ソ契約昏ハ其文詞ノ直義如何
ヲ問ハス双方ノ定メタル目的ナリト思料シ
得可キ所ト其契約ノ種類及ヒ習慣トニ從テ
之ヲ解釈ス可シ

第二百二條 義務ヲ保持シ又ハ之ヲ確定ス可
キト否トヲ定ムル未必ノ條件ニ管レタル約束
ノ善意ヲ解釈スル方法モ亦前条ト同レカル可シ

第二百三條 若シ契約ノ文意ニ疑アル片ハ義務ヲ
行フ可キ者ノ為メ益トナル可キ様之ヲ解釈ス可シ

第二百四條 契約レ之ヲ結ヒシ双方ノ外更ニ
他人ノ益トナル可カラズ然レモ契約ヲ為シタ
ル者ノ債主ハ其負債者ノ諸財産ヲ以テ負債者
ノ償ニ充テ用フ可キ權アルニ因リ其負債者ニ代
リテ右契約又ハ其他ノ原由ヨリ生スル權利ヲ行
フヲ得可シ但シ其負債者一身ノ固有ノ權利ハ格
別ナリトス

第二百五條 契約ハ之ニ管係ナキ者ノ為メ害
ヲ為ス可カラズ又其契約ノ日附確的ナル片ニ依サレ
ハ其契約ヲ申立テ之ニ管係ナキ者ノ訴ニ抗拒ス可カラズ

第二百六條 義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行

フ可キ者ノ已レノ權利ヲ害スルタメ爲シタル契約ヲ取消サレムルノ權アリ又義務ヲ行ハシム可キ者ハ之ヲ行フ可キ者ノ已レノ權利ヲ害スルタメ人ヨリ贈遺ヲ受タルヲ承諾シ又ハ其贈遺ヲ放棄スルヲ承諾シタルハ其承諾ヲ取消サレムルノ權アリ

第三章 所為ヨリ生スル義務

第二百七條 甲者其意ヲ以テ乙者ニ資益ヲ得セシメタルハ乙者其已レニ得タル資益ノ高ニ充ル迄甲者ノ爲シタル費用ト其受ケタル損失トヲ償フ可シ

第二百八條 已レニ屬セサル物件ヲ受取リタル者ハ之ヲ還サ、ル可カラス

第二百九條 若シ其者不正ノ意ヲ以テ已レニ屬セサル物件ヲ受取リタル時ハ其物件ヲ失ヒタルノ責ニ任シ且其物件ヨリ生シタル利益ヲ償還ス可シ

第二百十條 然レモ法律上ニ定メタルト否トヲ問ハス一箇ノ義務ニ因テ物件ヲ渡シタル時ハ其受取人之ヲ還スニ及ハス

第二百十一條 若シ甲者錯誤シテ乙者ノ義務ヲ自カラ丙者ニ尽クレ丙者正実ノ意ヲ以テ其物件ヲ受取リ其証書ノ滅尽シタル時ハ丙者ヨリ之ヲ還スニ及ハス但シ甲者ハ乙者ニ對シ其償ヲ得ント要ムルヲ得可シ

第二百十二條 前ニ記シタル模様ニ於テ亦為

ヨリ生スル義務ハ連帯シタルモノト為ス可
カラス

第二百十三條 後ノ數條ニ記列スル模様ニ
於テ生シタル義務ハ連帯シタルモノト為ス可
シ

第二百十四條 法律上ニテ罰スル總テノ犯罪
人ハ其犯罪ヨリ生スル損害ヲ償フ可シ但シ
犯罪人其年齢ニ目リ又ハ其他ノ理由ニ目リ
已レノ為シタル実行ヲ本心ニ知ラサル時ハ
格別ナリトス

第二百十五條 又甲者其管守ス可キ乙者ヲ監
スルニ急リ又ハ乙者ノ過失懈惰疎忽ニ因リ
丙者ノ為メ損害ヲ生スル時ハ甲者其損害ヲ

償フ可シ

第二百十六條 又僕婢其主長ヨリ命セラレタ
ル職務ヲ行フニ当リ人ニ損害ノ加ヘタル時
ハ主長其損害ヲ償フ可シ

第二百十七條 又獸類ノ所有者其管守スル獸
類ノ人ニ損害ヲ加ヘ又ハ其獸類ノ逃逸シテ
人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ其損害ヲ償フ可シ

第二百十八條 已レノ家産又ハ已レノ健康ヲ
害スルノ恐ナク人ノ損害ヲ防キ得可キニ其損害
ヲ防クヲ肯セス或ハ防クニ急リ又ハ之ヲ防
クノ方便ヲ授クルヲ肯セス或ハ急リタル者
ハ其損害ノ責ニ任ス可シ

第四章 法律上ヨリ生スル義務

第百十九條 別段法律上ニ定メタル所ノミヨリ生スル義務ハ連帶セシモノト為ス可カラズ但シ連帶ノ事ヲ別段法律上ニ定メタル時ハ格別ナリトス

第百二十條 血屬ノ卑屬ノ親ハ其尊屬ノ親ニ其尊屬ノ親ニ養料ヲ給ス可ク又姻屬ノ卑屬ノ親ニ結縁ノ間ハ其尊屬ノ親ニ養料ヲ給スヘシ
第百二十一條 又尊屬ノ親ノ卑屬ノ親ニ於ケル及ヒ夫婦互相ノ間ニ於ケル亦前条ニ同シ
第百二十二條 養料ハ之ヲ給スル者ノ家産ト之ヲ得ル者ノ要スル所トニ准シ其高ヲ定ム可シ

第百二十三條 養料ハ必ス毎月前渡ニ為ス

可シ

第五章 義務ノ消散スル事

第百二十四條 義務ハ左ノ諸件ニ因テ消散ス可シ

義務ヲ行フ事

義務ヲ解除スル事

義務ヲ釋放スル事

義務ヲ更改スル事

二箇ノ義務互ニ相殺スル事

權利ト義務ト渾同スル事

期滿免除ノ權 プロレヨンク

第一款 義務ヲ行フ事

第百二十五條 若シ義務ノ種類ニ因リ其美

務ヲ行ハシムル者之ヲ行フ可キ本人ヲシテ
自カラ之ヲ行ハシムルヲ欲スル旨ヲ知り得
可キ時ハ其本人自カラ之ヲ行フ可シ

第二百二十六條 若シ義務ヲ行フ為ノ物件ヲ
渡ス可キ時ハ縱令義務ヲ行ハシムル者又ハ
之ヲ行フ可キ者ノ意ニ出テスト雖モ他人ヨ
リ其物件ヲ渡ストヲ得可シ

第二百二十七條 甲者義務ヲ行フ可キ乙者ニ
代テ義務ヲ行ハシム可キ丙者ニ物件ヲ渡シ
タル時ハ甲者ヨリ乙者ニ對シ己レノ渡シタ
ル物件ノ高ニ充ル迄ノ高ヲ償還セシムルノ訴
ヲ為ストヲ得可シ

第二百二十八條 前條ノ甲者ハ尤ニ記列スル

場合ニ於テハ己レノ新タニ得タル權利ヲ保
証スル為メ以前ノ權利ト同シキ保証ヲ得可シ

第一 丙者甲者ヨリ物件ヲ受取りタル時
公正ノ証書ヲ以テ以前ノ保証ヲ甲者ニ
移ストヲ承諾シタル時

第二 甲者乙者ト共ニ義務ヲ負ヒ又ハ乙
者ノ為メ義務ヲ負フタル時

第三 甲者己レニ優リタル債權先取リノ
權又ハ不動産書入質ノ權ヲ有スル丙者ニ
物件ヲ渡シタル時又ハ甲者不動産ヲ買
入レ其代金ヲ右動産ニ付キ書入質ノ權
ヲ有スル丙者ニ渡シタル時

第四 法律上ニテ甲者ヲシテ丙者ノ權ニ

代ラシム可キヲ特ニ定メタル時

第二百二十九條 若シ甲者義務ヲ行フ可キ乙者ノ意ニ非スレテ丙者ニ物件ヲ渡シタル時乙者右物件ヲ渡スニ及ハサル權アルノ證ヲ立ルニ於テハ甲者ノ償還ヲ要ムル訴ノ全部又ハ一部ニ抗拒スルノ權アリ

第二百三十條 又義務ヲ行フ可キ乙者ハ義務ヲ行ハレム可キ丙者ノ承諾ヲ得スト雖モ丙者ニ渡ス可キ物件ヲ已レニ給與セシ甲者ニ以前ト同レキ保証ヲ移ストヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ右物件ノ給與ト其用法トヲ公正証書ヲ以テ証スルヲ必要トス

第二百三十一條 法ニ適シテ物件ヲ渡ス爲メ

ニハ義務ヲ行フ可キ者ニ其物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權アリテ且義務ヲ行ハシム可キ者ニ之ヲ受取ル可キ權アルヲ必要トス
第二百三十二條 然レモ物件所有ノ權ヲ人ニ移ス可キ權ナキ者ヨリ義務ヲ行ハシム可キ者ニ物件ヲ渡シ其權ナキ者ノ爲メ損害アラカル時ハ其義務消散ス可シ

第二百三十三條 義務ハ之ヲ行ハシム可キ者又ハ其特別ノ名代人又ハ其者ヨリ權利ヲ讓リ受ケタル者ノ爲メ之ヲ行フ可シ

第二百三十四條 義務ヲ行フ方法ハ双方ノ預定シタル如クナル可ク又義務ハ約定シタル時ト地トニ於テ之ヲ行フ可シ又義務ハ其一

部ノミヲ行フ可カラズ但シ特別ナル場合ニ
於テ義務ヲ行ハシム可キ者ノ為メ至重ノ損
害アラサル時ハ裁判役義務ヲ行フニ付テノ
期限ヲ定メ又ハ相当ノ猶豫ヲ許スコトヲ得
可シ

第二百三十五條 特ニ指定メタル物件ヲ渡
ス可キ地ハ其物件所在ノ地タル可シ但シ之
ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第二百三十六條 又貨幣或ハ種類ノミヲ指定
メタル物件ニ付テハ義務ヲ行フ可キ者ノ住
买ニ於テ之ヲ渡スコトヲ契約シタルト看做ス
可シ

第二百三十七條 義務ヲ行フ費用ハ之ヲ行フ

可キ者擔當ス可シ

第二百三十八條 数箇ノ義務アリテ其義務ヲ
行フ可キ者ヨリ物件ヲ渡シタル時ハ其物件
ヲ其者ノ特ニ定メタル義務ヲ行フニ充テ用
フ可シ又其者特ニ之ヲ定メサル時ハ其者ノ
最モ速カニ尽クスコトノ必要ナル義務ヲ行フ
ニ充テ用フ可シ

第二百三十九條 義務ヲ行フ可キ者ヨリ物件
ヲ渡シタル時ハ先ツ義務ノ費用利息年金ヲ
償フニ充テ用ニ然ル後ニ生タル義務ヲ行フ
ニ充テ用フ可シ

第二百四十條 事ヲ為ス可キノ義務アル者ハ
之ヲ為サント提供スルノミニテ当然其義務

ヲ免ル可ラス然レ其提供ヲ為シタル時
義務ヲ行ハシムヘキ者之ヲ承諾セサルニ因
リ義務ヲ行フ可キ者ノ為メニ損害ヲ生シタ
ルニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ニ對シ損
害ノ償ヲ要ムルヲ得可レ

第二百四十一條 然レ不動産ヲ渡ス可キ義務
ヲ行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者訴訟法
ノ規則ニ從ヒ提供ヲ為スニ因リ其義務ヲ免
ル、トヲ得可シ

第二百四十二條 又不動産ノ渡ス可キ義務ヲ
行フ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ行ハ
シム可キ者ヲ裁判所ニ呼出し其出席ノ有無
ヲ問ハス裁判所ヨリ其不動産ノ附託ヲ受ク

第二款 義務ヲ解除スル事

第二百四十三條 義務ノ生シタル後之ヲ行フ
不能ハサルニ至リシ時ハ其義務ヲ解除シテ
之ヲ消散セシム可レ

第二百四十四條 若レ義務ヲ行フ可キ者ノ過
失ニ因リ之ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時又
ハ其者之ヲ行フ可キノ催促ヲ受テタル後之
ヲ行フ不能ハサルニ至リシ時ハ其義務ヲ行
フ可キ者損失ノ償ヲ擔當ス可シ

第二百四十五條 義務ヲ行フ不能ハサルニ至
リシニ因リ其義務ヲ解除シタル時ハ其義務
ト相對シタル義務ヲモ亦解除ス可シ但レ正

当ノ原目ナクシテ得タル利益アル時ハ互ニ
償還ヲ為ス可ク且正実ニ不動産書入質ノ権
ヲ得タル債主ノ権利ヲ害ス可カラス

第三款 義務ヲ釋放スル事

第二百四十六條 人ニ贈遺ヲ為ス可キノ権ア
ル者ヨリ自己ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放シタル
時ハ其義務消散ス可シ

第二百四十七條 義務ヲ行フ可キ者其義務ノ
釋放ヲ得タル時ハ保証人モ亦其義務ノ釈放
ヲ受ク可シ

第二百四十八條 連帯シテ義務ヲ行フ可キ数
人中ノ一人其義務ノ釋放ヲ得タル時ハ其一
人ノ部分ノミニ付キ其釋放ヲ為シタルモノ

ト看做シ其部分ノミヲ消散セシム可シ

第二百四十九條 連帯シテ義務ヲ行フ可キ数
人中ニテ已レノ部分ノ釋放ヲ得サル者ハ後
ニ其数人中ニ義務ヲ行フ能ハサル者アル
時ニ至リ其者ノ部分ヲ他ノ数人ニ分配スル
為メノ外既ニ釈放ヲ得タル者ニ對シ訴ヲ為
ス可カラス

第二百五十條 保証人ヲ釋放シタル時ハ其保
証ノ義務ノミヲ釈放シタルモノト看做ス可
シ

第二百五十一條 釈放ヲ得タル保証人ノ嘗テ
其保証ノ義務ヲ承諾セシト若シ他ノ保証人
ノ保証ノ義務ヲ承諾シタルヨリ以前ナル時

ハ他ノ保証人ヨリ其釋放ヲ得タル保証人ニ
對シテ訴ヲ為スヲ得可シ

第四款 義務ノ更改スル事

第二百五十二條 義務ノ更改シタル時ハ從來
ノ義務消散シ之ニ代テ新ナル義務ヲ生ス

第二百五十三條 義務ノ更改ハ契約ヨリ生ス

第二百五十四條 左ノ場合ニ於テハ義務更改
ス可シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム

可キ者ト協議シテ從來ノ義務ヲ消散セ

シメ之ヲ代ヘテ更ニ新ナル義務ヲ生セ

シメシ時又ハ從來ノ義務ノ原因ヲ變更

セシ時

第二 義務ヲ行フ可キ甲者ノ承諾ノ有無

ヲ問ハス義務ヲ行ハシム可キ乙者ト管

係ナキ兩者ト協議シテ其甲者ヲ解放シ

丙者之ニ代テ義務ヲ行フ可キ者トナリ

シ時又ハ甲者丙者ヲシテ己シニ代テ義

務ヲ行ハシム可キヲ乙者ニ承諾セシ

メタル時

第三 右ノ甲者ト乙者ト協議シテ從來ノ

義務ヲ取消シ甲者兩者ノ承諾ヲ得タル

上其兩者ノ利益ノ為メ更ニ他ノ義務ヲ

行フ可キヲ定メタル時

第二百五十五條 新ニ生シタル義務ヲ行ハシ

ムルニ付テハ從來ノ義務ヲ行ハシムルニ付

テノ保証ヲ移ス可カラス但シ契約又ハ模様ニ因リ雙方ノ者ニ別段ノ意見アルトヲ知ル可キ時ハ格別ナリトス

第二百五十六條 然レモ契約ハ左ノ効ノミ生ス可シ

第二百五十四條ノ第一ノ場合ニ於テハ義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム可キ者ト協談シテ債主ノ他ノ債主ヨリ先キ取リノ権不動産書入質ノ権財産引留ノ権等ノ如キ従来ノ義務ニ付テノ物ニ管スル保証^ガラ^レエ^ルケ^ルヲ新ナル義務ニ移ス^トヲ得可シ但シ之^レカ^ノ為^メノ其義務ニ管係ナキ者ノ権利ヲ害ス可カラス^レ同條第二ノ場合ニ於テハ義務ヲ行フ可キ甲

者ノ承諾ノ有無ヲ問ハス義務ヲ行ハシム可キ乙者ト管係ナキ丙者ト協議シテ従来ノ義務ニ付テノ物ニ管スル保証ヲ新ナル義務ニ移ス^トヲ得可シ

又同條ノ第三ノ場合ニ於テハ契約ヲ為ス三名同上ノ協議ヲ為ス^トヲ得可シ

第二百五十七條 右三箇中何レノ場合ニ於テモ連帶シテ義務ヲ行フ可キ者及ヒ保証人ノ承諾アルニ非サレハ保証ノ義務及ヒ連帶ノ義務等ノ如キ人ニ管スル保証^ルソ^ラニ^シル^ルヤ^ハヲ移ス可カラス

第二百五十八條 前條ニ記スル保証ヲ移ス契約ハ義務ノ更改スルト同時ニ之ヲ公正ノ証

書ニ記スルニ非サレハ管係ナキ者ニ對シ其効ナカル可シ

第五款 二箇ノ義務互ニ相殺スル

第二百五十九條 二个ノ義務互ニ相殺スルハ義務ヲ盡クスノ一種ニシテ義務ヲ行フ可キ者義務ヲ行ハシム可キ者トナリ義務ヲ行ハシム可キ者義務ヲ行フ可キ者トナル時ハ縱令双方ノ者識認スルヲヤシト雖モ二个ノ義務當然互ニ相殺ス可

第二百六十條 二个ノ義務中ニテ高ノ寡ナキ義務ノ高ニ充ル迄互ニ相殺ス可

第二百六十一條 二个ノ義務ノ高互ニ確定シ

且既ニ之ヲ行フ可キ期限ニ至リ且其義務ハ共ニ金高又ハ種類品位ノ相同シキ同質ノ品物ニ管シ並ニ同一ノ地ニテ之ヲ行フ可キモノニ非サレハ互ニ相殺ス可カラス

第二百六十二條 義務中ノ一个ヲ差押フ可カラサル時又ハ金高或ハ品物ノ附託ニ拠リ其義務中ノ一箇ノ生シタル時ハ二个ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラス

第二百六十三條 二个ノ義務互ニ相殺ス場合ニ於テ数个ノ義務中ノ一ヲ尽クスニ充テ用フルコトハ通常義務ヲ尽クスキト同一タル可シ

第二百六十四條 若シ義務ヲ行ハシム可キ甲者

已レノ權利ヲ兩者ニ譲リ渡シ義務ヲ行フ可
キ乙者其譲リ渡ヲ承諾シタル時ハ乙者二个
ノ義務ノ互ニ相殺スルヲ述ヘテ兩者ノ權
ヲ害ス可カラズ唯甲者ニ對シテ其償ヲ要ム
ルヲ得可シ

第二百六十五條 若シ義務ヲ行フ可キ者二箇
ノ義務互ニ相殺ス可キヲ述フルヲナク其
義務ヲ行フタル時ハ保証人連帶シテ義務ヲ
行フ可キ者其義務ヲ行フタル為メ已レノ權
利ヲ害セラレシ先取りノ推アル債主其義務
ヲ保証セシ質物ノ所有者ヨリ二个ノ義務互
ニ相殺スルヲ述フルヲ得可シ但シ義務ヲ
行フタル者其義務ヲ行ヒシ時之ヲ相殺セシ

ム可キ權利ノ已レニ存スルヲ知ラサルノ証
アル時ハ格別ナリトス

第二百六十六條 義務ヲ行フ可キ甲者義務ヲ
行ハシム可キ乙者ニ義務ヲ尽クス可カラサ
ルノ差留ヲ他人ヨリ受ケ又ハ乙者ヨリ已レ
ノ權利ヲ他人ニ移シタルノ告知ヲ受ケタル
ハ其差留又ハ告知ヨリ後ニ生シタル權利ヲ
以テ二个ノ義務互ニ相殺ス可カラズ

第二百六十七條 義務ヲ行フ可キ者ハ之ヲ行
ハシム可キ者ヨリ其義務ノ保証人ニ對シ尽
クス可キ義務アルヲ以テ二个ノ義務ヲ互ニ
相殺ス可カラズ

第二百六十八條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數

人ハ之ヲ行ハシム可キモノヨリ其数人中ノ一人ニ對シ尽クヌ可キノ義務アルヲ以テ二個人ノ義務ヲ互ニ相殺ス可カラヌ但シ其一人ノ部分ノミハ格別ナリトス

第六款 權利ト義務ト渾同スル事

第二百六十九條 一人ニテ義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ行ハシム可キ者トノ自分ヲ兼有スル時ハ權利ト義務ト渾同ス可シ

第二百七十條 權利ト義務ト渾同スル時ハ保證人ノ義務ヲ釋放ス可シ然レニ連帶シテ義務ヲ行フ可キ数人ニ付テハ權利ト義務トヲ兼有セシ其中ノ一人ノ部分ヲ除クノ外其義務ヲ釋放ス可カラヌ

第七款 期滿免除ノ權

第二百七十一條 法律上ニ定メタル期限ヲ經テ期滿免除ノ權ヲ得タル時ハ義務ヲ消散セシノ義務ヲ行フ可キ者ヨリ其旨ヲ申立ル時ハ全ク其義務ヲ免除シタルモノト看做スヘシ

第二百七十二條 期滿所得ノ權ヲ得ヘキ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル原由及ヒ其期限ノ經過ヲ停止スル原由ニ付キ期滿所得ノ權ノ為ノ定メタル規則ハ義務ヲ免除スル期滿免除ノ權ニ之ヲ適用ス可シ

第二百七十三條 若シ義務ヲ行フ可キ者既ニ期滿免除ノ權ヲ得タルニ其義務ヲ行ハシム可キ者ト謀リ他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ノ

權利ヲ害スル為ノ故ラニ 期限免除ノ權ヲ拋棄シタル時ハ 他ノ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ 其期限免除ノ權ヲ申立ツルヲ得可シ

第二百七十四條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中ハ一人又ハ主タル義務ヲ行フ可キ者 期限免除ノ權ヲ拋棄スルト 虽モ其義務ヲ行フ可キ他ノ者又ハ保証人ノ自己ノ權利ノ為メ 期限免除ノ權ヲ得ルノ妨ケトナルヲナカル可シ

第二百七十五條 凡ソ義務ハ十五年ヲ以テ其期限免除ノ期限ナリトス 但シ後ノ數條ニ記スル所ト法律上ニ別段定メタル所トハ格別ナリトス

第二百七十六條 鑿師ノ診察料商人ヨリ商人ニ非サル者ニ賣拂フタル高品ノ代金子第ヨリ 授業師ニ納ム可キ謝金 僕婢ノ雇賃ハ三百六十日ヲ以テ其期限免除ノ期限ナリトス 但シ右三百六十日ノ時間ニ同一ノ原因ニ付キ更ニ義務ノ生スルヲアルモ亦同様ナリトス

第二百七十七條 使吏及ヒ書記官ノ昏類ヲ記シタルニ付キ 與フ可キ謝金ハ其昏類ヲ記シタル訴訟ノ終リヨリ三百六十日ヲ以テ其期限免除ノ期限ナリトス 但シ其書類ヲ記シタルノミニテ訴訟ノ手續ヲ為サ、ル時ハ之ヲ記シタルヨリ三百六十日ヲ以テ期限免除ノ期限ト為ス可シ

第二百七十八條 年賦金養老金土地又ハ家屋ノ借賃借金ノ利息及ヒ其他毎歳拂フ可ク又更ニ短キ期限ヲ以テ拂フ可キ諸件ハ「アラヒ」曆ニ從テ算計シタル五年ノ時間ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス

第二百七十九條 三百六十日又ハ更ニ短キ期限ニテ期滿免除ノ權ヲ得可キ場合ト商業手形類ニ付キ商法上ニ定メタル場合トニ於テハ期滿免除ノ權ヲ得タリト述フル者真ニ其義務ノ免除ヲ得タル誓ヲ為スニ非レハ其義務ノ免除ヲ得可カラス

第二百八十條 寡婦遺物相続人及ヒ此等ノ者ノ後見人ハ義務ヲ負フタルヲ知ラサルノ

誓ヲ述フ可シ

第六章 義務ノ証及義務免除ノ証

第二百八十一條 義務ノ証ハ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ

第二百八十二條 義務免除ノ証ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ之ヲ立ツ可シ

第二百八十三條 商業上ノ事件ヲ除クノ外總テノ事件ニ付キ一千円アストル以上ノ金高又ハ物品ニ管シタル時或ハ價高ノ定マラサル物品ニ管シタル時ハ義務ノ証又ハ義務免除ノ証ヲ立テント為ス者ヨリ証人又ハ思料ヲ以テ其証ヲ立ツ可カラス但シ其者其時ノ模様ニ因テ右等ノ証ヲ立ツノ書類ヲ得ル

能ハサル時ハ格別ナリトス

第二百八十四條 前條ニ記シタル者ノ訴訟法ニ定メタル法式ヲ以テ相手方ヲ問糺ス可キ
一ヲ裁判所ニ訴ヘ又ハ相手方ニ誓ヲ為ス可
キ一ヲ要メテ相手方ノ自認ヲ得ント求ムル
一ヲ得可キノミトス

第二百八十五條 然レ氏本人ノ記シタル書類
因リ其義務ヲ負フタル一又ハ義務ノ免除ヲ
得タル一ノ實ニ近キ時ハ証人又ハ思料ヲ以
テ証ヲ立ツル一ヲ得可シ

第二百八十六條 又偶然ノ事ニ因リ証書ヲ失
フタルノ確証アル片ハ前條ト同一ナリトス
第二百八十七條 義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ

証書ノ正本又ハ執行ノ文詞ヲ記シタル其寫
書^{エキセスキエチ}ワ^ニラ^ルンヲ義務ヲ行フ可キ者ニ
渡シタル時ハ義務免除ノ証アリトス

第二百八十八條 然レ氏義務ヲ行ハシムハキ
者ハ義務ヲ免除スルヨリ更ニ他ノ原回ニ付
キ義務ヲ行フ可キ者ニ証書ヲ渡シタル旨ヲ
証人ヲ以テ証セシムル一ヲ得可シ

第二百八十九條 義務ノ執行已始メタル時ハ
裁判役其時ノ模様ニ因リ証人又ハ思料ヲ以
テ証ヲ立ツル一ヲ許ルヌヲ得可

第二百九十條 利息及ビ年賦金ヲ拂フタル時
ハ証書ニ拠ラステ主タル義務ノ証ニ立ツ
ル一ヲ得可シ

第二百九十一條 書類ヲ以テ十分ナル証ト為
ス可カラサルカ如キ景状アル時ハ裁判役ヨ
リ義務ヲ行ハシム可キ者ニ其義務ノ証ヲ立
ツル為メ誓ヲ為スヲ命シ又ハ義務ヲ行フ可
キ者ニ其義務免除ノ証ヲ立ツル為メ誓ヲ為
スヲ命スルヲ得可シ

第二百九十二條 又義務ヲ行フ可キ者ト之ヲ
行ハシム可キ者ト互ニ誓ヲ為スヲ求メルヲ
得可シ但シ此場合ニ於テハ誓ヲ為ス可キ
ノ求メヲ受ケタル者ヨリ相手方ニ誓テ反シ
求ムルヲ得可シ

第二百九十三條 一方ノ者相手方ニ誓ヲ為ス
ハキヲ求メタル時ハ其他ノ證ヲ立ツルノ
方法ヲ抛棄シタルト看做ス可シ

第二百九十四條 証書ノ公正ナル時即チ相当
ナル官吏ノ面前ニ於テ証書ヲ記シタル時ハ
其官吏ノ偽証ヲ為シタル訴アルニ至ル迄如
何ナル人ニ對スルモ其証昏ヲ以テ確証ト為
ス可シ

第二百九十五條 私ノ証昏ハ之ヲ記シタルリト
言掛ケラレシ者之ヲ記シタルトナシト述フ
ル迄又ハ之ニ姓名ヲ手署シタリト言掛ケラ
レシ者手署シタルトナシト述フル迄ハ双方
ノ間ニ於テ公正ノ証書ト同シキ証ト為ス可
シ

第二百九十六條 私ノ證書ハ其日附ノ正カナ

ル時ニ非サレハ管係ナキ者ニ對シテ証ト為
ス可カラス

第二百九十七條 私ノ証各ノ日附ヲシテ正カ
ナラシムルニハ其全文又ハ抜抄シタル文ヲ
公ケノ簿冊ニ記入シテ且其証書ニ右記入ノ
旨ヲ記載シ又ハ既ニ死去ヒシ人ノ認メラレ
タル自筆ノ書又ハ姓名ノ手署又ハ相當ノ官
吏或ハ裁判役ノ檢印アルヲ必要トス

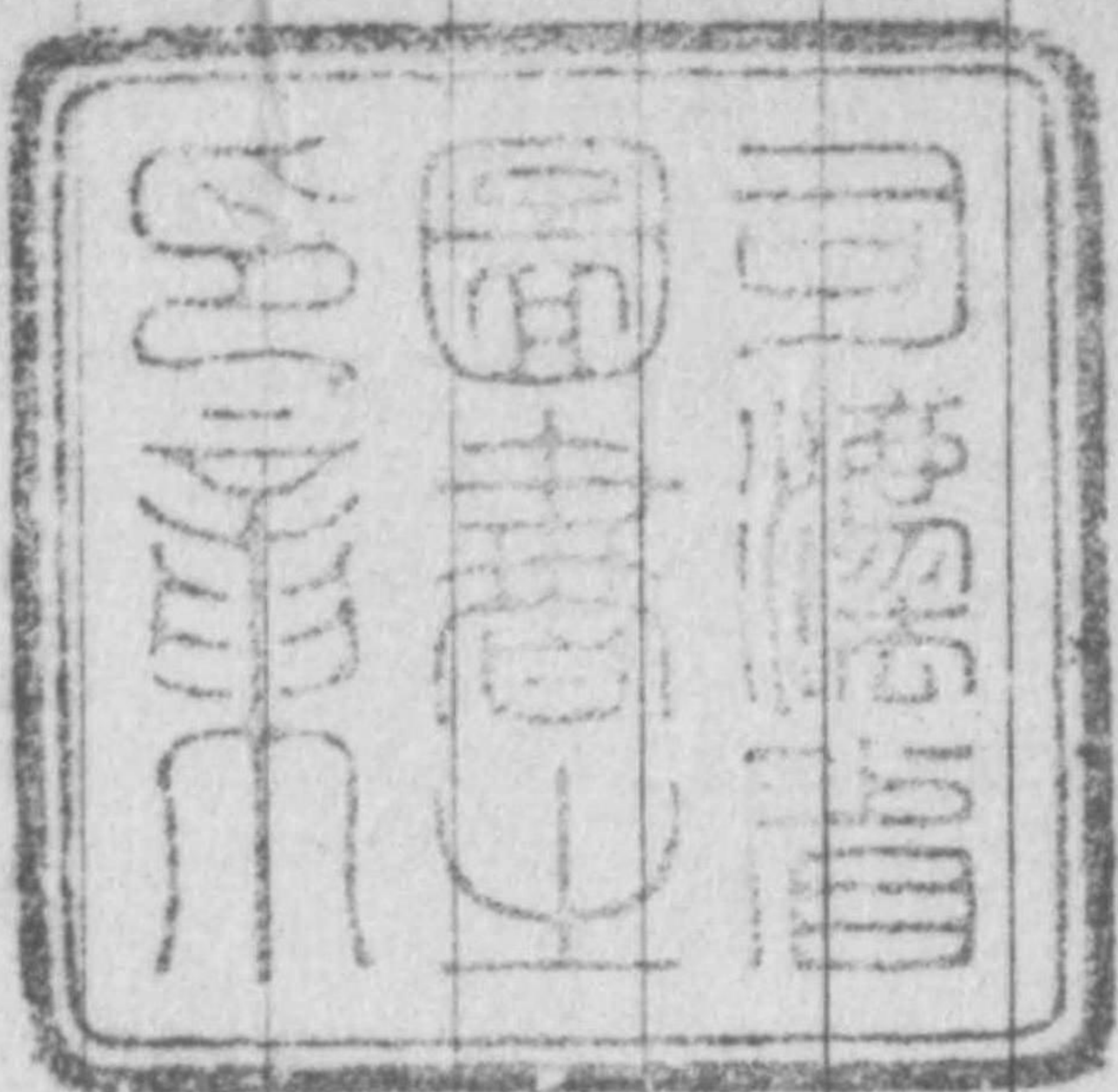
第二百九十八條 証書ニ義務免除ノ旨ヲ記シ
タル時ハ縱令義務ヲ行ハシハ可キ者ノ姓名
ノ手署ナシト虽モ義務免除ノ証ト為ス可シ
第二百九十九條 執行ノ文詞ヲ記セシ寫ヲ除
ノ外其他總テ公ケノ官吏ノ記マシ証各ノ

寫ハ其正本ヲ差出スル能ハサル時裁判役其
寫ヲ以テ証拠ト為ス可キヤ否ヤヲ鑒定ス可
シ右ノ寫ハ少クモ証據ノ端緒ト為ス可シ

第三百條 義務ヲ行フ可キ者モ之ヲ行ハシム
可キ者モ以前ト同シク且原告モ被告モ以前
ト同シキ時ハ既ニ終審ノ裁判ニ經タル事ノ
カ佛蘭西民法第三十三條見合因テ其確証アリトシ之
ニ及シタル証ヲ立ツルヲ許サス

第三百一條 裁判所ニ於テ一方ノ者其義務ノ
一部ヲ行ヒ他ノ一部ヲ行ハサル旨ヲ自認シ
タル氏ハ相手方ノ者其義務ノ一部ヲ行ハシ
ノタルハ虚ニシテ他ノ一部ヲ行ハシメサル
ハ實ナルヲ述フ可カラス

第三百二條 商業上ノ事ニ付テハ賣買及ヒ其
他諸般ノ契約ヲ証人及ヒ思料ニ因リ又ハ其
他諸般ノ方法ニ因テ証スルヲ得可シ



埃及法
律書

民法草案

卷三

第三篇 各種ノ契約

第一章 賣買ノ契約

第一款 総テ賣買ノ契約

第三百三條 賣買ノ契約トハ甲ヨリ物品所有ノ權及ク之ヲ隨意ニ為スノ權ヲ乙ニ讓リ乙ヨリ其物品ノ直打チニ當レル代價ヲ甲ニ拂フ可キ契約ヲ云フ

第三百四條 甲ハ賣ルル乙ハ買フル双方同時ニ承諾シ且其物品ト代價トヲ協議シタルニ非サレハ賣買ノ契約ヲ成就シタルモノナリトセス

第三百五條 賣買ノ契約ハ公正ノ証書又ハ私ノ証書又ハ其他ノ書面ヲ以テ之ヲ為スルヲ

得可シ

第三百六條 又賣買ノ契約ハ口上ヲ以テ之ヲ為シ又ハ符号ヲ以テ之ヲ為スルヲ得可シ但シ此等ノ場合ニ於テ一方ノ者其契約ヲ為シタル覺ナシト述フル時ハ相手方其証ヲ立ツルニ付キ法律上ニ定メタル証人ヲ以テ証ヲ立ツルノ規則ニ循フ可シ

第三百七條 賣買ノ契約ハ別段ノ約束ナク之ヲ為スルヲ得又ハ期限ヲ定メテ之ヲ為スルヲ得又ハ別段ノ約束ヲ附加シテ之ヲ為スルヲ得可シ其約束ハ未必ノ事ノ生スル迄義務ノ執行ヲ停止ス可キモノタルヲ得可ク又ハ未必ノ事

ノ生スル時ハ義務ヲ解除ス可キモノタルヲ得可シ

第三百八條 物品ヲ一纏ト為シテ賣買スルヲ得可ク又ハ之ヲ度量シテ賣買スルヲ得可シ又ハ之ヲ試ミタル上ニテ賣買スルヲ得可シ
第三百九條 又賣主又ハ買主ノ意ニ任カセニ箇以上ノ物品中其一ヲ擇ム可キノ約束ヲ以テ賣買ヲ為スルヲ得可シ

第三百十條 賣買ノ証書ニ代價ヲ拂フ可キ期限又ハ賣買ニ付テノ別段ナル約束ヲ記セサル時ハ現金ニテ別段ノ約束ナク賣買ヲ契約セシモノト看做ス可シ但シ土地ノ習慣或ハ商業上一般ノ習慣ニ因リ黙許ヲ以テ代價ヲ

拂フ可キ期限ヲ定メ又ハ別段ノ約束ヲ定メ
タリト思料ス可キ時ハ格別ナリトス

第二款 賣主及ビ買主

第三百十一條 賣主及ビ買主ハ法律上ニテ自
カラ義務ヲ負ヒ得可キノ権アルコトヲ必要ト
ス

第三百十二條 賣主ハ其賣ラントスル物品ヲ
人ニ譲リ得可キノ権アルコトヲ必要トス

第三百十三條 賣主及ビ買主ノ承諾ハ自由ニ
シテ且理ニ通フタルヲ必要トス

第三百十四條 買主ハ自身ニテ物品ヲ十分ニ
知得シ又ハ已レニ代テ檢視スルヲ任シタル
名代人ヲシテ之ヲ十分ニ知得セシム可シ

第三百十五條 物品ヲ一纏ニ為シテ賣買スル
ノ約ヲ為シ買主其一部分ノ之ヲ檢視シタル
時若シ買主其全部ヲ檢視セハ之ヲ買入ル、
コトナカル可シト思料ス可キ模様アルニ於テ
ハ買主其賣買ノ契約ヲ解除スルノ言渡ヲ得
可シ然レモ其物品ヲ分別セシメ又ハ其價ヲ
減セシムルコトヲ得可カラス若シ買主右ノ物
品ヲ一旦書入質ニ為シ又ハ其他ノ方法ニテ
已ノ隨意ニ為シタル上ハ前ニ記シタル契約
解除ノ権ヲ行フ可カラス

第三百十六條 賣買ノ契約書ニ買主其買入レ
ントスル物品ヲ知リタル旨ヲ記スル時ハ買
主其物品ヲ知ラサルニ付キ其契約ヲ取消ス

可キノ權ヲ失フ可シ但シ買主賣主ニ説欺アルヲ証スル時ハ格別ナリトス

第三百十七條 買主ノ自カラ檢視セサル物品又ハ名代人ヲシテ檢視セシメサル物品ヲ賣買ス可キ契約アリト虽モ其契約書ニ右物品ノ何物タルヤヲ指定ノ且其物品ノ重立チタル品質ヲ指定ノ以テ其物品ヲ驗真シ得可キ時ニ非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第三百十八條 若シ盲人ト賣買ノ契約ヲ為シ其盲人其物品ヲ見ルヨリ他ノ方法ヲ以テ其品質ヲ知ルヲ得タル時又ハ其依頼スル名代人ヲシテ之ヲ檢視セシメタル時ハ其賣買契約ノ効アリトス

第三百十九條 最後ノ疾病中遺物相續人中ノ一人ニ物品ヲ賣渡ス契約ハ各相續人皆之ヲ破定スルニ非サレハ其効ナカル可シ

第三百二十條 若シ前條ノ場合ニ於テ遺物相續人ニ非サル者ニ物品ヲ賣渡ス契約ヲ為シタル時其物品ノ價賣主ノ財産三分一ノ價ニ過キサルニ於テハ其契約ノ取消ヲ訴フ可カラス

第三百二十一條 若シ賣渡シタル物品ノ價死去シタル賣主ノ財産三分一ノ價ニ過クル時ハ買主其賣主ノ遺物相續人ヨリノ求メニ因リ或ハ賣買ノ契約ヲ廢シ或ハ死去シタル賣主ノ財産三分二ノ價ノ缺ケタル部分ヲ其相

續人ニ渡ス可シ

第三百二十二條 前二條ノ規則ハ本國ノ法律ヲ以テ其人權ヲ規定ス可キ賣主ノ之ニ通シ用フ可シ
又前二條ノ規則ヲ以テ其物品ニ付キ不動産書入質ノ權ヲ有スル債主又ハ正實ニ代金ヲ出シ其物品ヲ買入レタル者ノ權利ヲ害ス可カラス

第三百二十三條 裁判役、書記官、使吏、代言人ハ其職務ヲ行フ裁判所ノ所轄タル訴訟ヲ為ス權ノ全部又ハ一部ヲ自カラ買受タルヲ得ス又他人ノ介人セシメ之ヲ買受タルヲ得ス縱令之ヲ買受クルトモ其効ナカル可シ

右ノ場合ニ於テハ當然其賣買契約ノ効ナクシテ何人ニ限ラス之ニ管係アル者ノ求メニ因リ又ハ裁判所ノ公務ヲ以テ其取消ヲ言渡ス可シ

第三百二十四條 後見人又ハ管財人ノ如キ法律上ノ名代人又ハ契約ヲ為シテ任シタル名代人ハ其名代人タルノ職務ヲ以テ賣拂フ可キ物品ヲ自カラ買入ル可カラス
右ノ場合ニ於テハ賣拂ヲ為ス本人其賣拂フ契約ヲ確定ス可シ但シ之レカ為メニハ本人其契約ヲ確定スル時已レノ財産ヲ人ニ譲リ渡シ得ルノ權ヲ有スルヲ必要トス

第三款 賣買ス可キ物件

第三百二十五條 賣買ス可カラサル物又ハ價ヲ見積ル可カラサル物又ハ引渡ス可カラサル性質ノ物ノ賣買契約ハ其効ナカル可シ

第三百二十六條 特ニ定メタル物品又ハ物品ニ付テノ共通所有ノ権又ハ物品ニ付テノ特ニ定マリシ所有ノ権ハ之ヲ賣買スルヲ得可シ

又種類ノミノ定マリシ物品ヲ賣買スルヲ得可シ

第三百二十七條 種類ノミノ定マリシ物品ヲ賣買スル契約ヲ為ス時ハ其物品ノ種類互ニ相易ユルヲ得可ク且其數其大サ其度量ノ畧定マリ双方ノ理ニ適シ承諾セシヲ知り得

可キ者タルニ非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第三百二十八條 又物件所有ニ管セサル権又ハ他人ヲシテ義務ノ行ハシム可キ権ヲ賣買スルヲ得可シ

第三百二十九條 未タ結ハサル樹菓又ハ未タ生セサル穀類ヲ賣買スル契約ハ其効ナカル可シ

第三百三十條 然レ氏既ニ結ヒタル樹菓又ハ既ニ生シタル穀類ノ賣買ヲ契約シタル時ハ其契約ノ後結ヒタル樹菓又ハ其契約ノ後生

シタル穀類ヲモ亦其契約中ニ保合ス可シ
第三百三十一條 現ニ生存スル人ノ遺物相續

ヲ為ス權ヲ賣買スル契約ハ縱令本人ノ承諾
アリト虽モ其効ナカル可シ

第三百三十二條 賣主ニ屬セサル特ニ定コリ
シ物品ヲ賣買スル契約ハ其効ナカル可シ
然レモ其物品ノ真ノ所有者其契約ヲ確定ス
ル時ハ其契約ノ効ヲ生スルコトヲ得可シ

第三百三十三條 若シ賣主已レニ屬セサルヲ
知リタル物品ヲ已レニ屬スルモノト為シ賣
リタル時買主ノ正実ナルニ於テハ買主其償
ヲ求ムルコトヲ得可シ

第三百三十四條 若シ特ニ定メタル物品ノ所
有者ニ非サル者定メタル價ヲ得テ其所有ノ
權ト入額所得ノ權トヲ人ニ移ス可キコトヲ契

約シタル時ハ總テ契約ヨリ生スル義務ノ一
般ノ規則ニ循ヒ其契約ヲ處置ス可シ

第四款 賣買契約ノ効

第三百三十五條 正當ニ取結ヒタル賣買契約
ノ効ハ左ノ如シ

第一 買主ト其權ニ代ル可キ遺物相續人又
ハ其債主トニ其買入レタル物品又ハ權利
ノ所有ノ權ヲ移ス事

又物品ノ共通ノ部分ノミヲ買ヒタル時ハ
其共通所有ノ權ノミヲ移ス可キ事

第二 賣主ヲシテ其賣リタル物品ヲ引渡サ
レムル事且賣主買主ニ對シ妨害ナク其物
品ヲ所有スルヲ保証ス可キ事

第三 買主ヲシテ價高ヲ拂ハレムル事
又賣買ノ契約ヲ為シタル時ハ其時ノ模様ニ
因リ買主ヲシテ其物品ヲ擔當セシムルア
リ

第一節 所有ノ權ヲ移ス事

第三百三十六條 特ニ定メタル物品ヲ賣拂ス
タル時ハ縱令契約書ニ其引渡ノ期限ヲ記ス
ルト虽モ買主直チニ其所有ノ權ヲ得可シ
但シ此場合ニ於テ賣主其引渡ノ前ニ家資分
散ヲ為ス時ハ買主其買ヒタル品物ヲ已レニ
受取ラント求ムルノ權アリ

第三百三十七條 種類ノミヲ定メシ物品ヲ賣
買シタル時ハ之ヲ引渡シタル上ニ非サレハ

其所有ノ權ヲ移ス可カラズ

第三百三十八條 或ル事件ノ現ニ生スル時ハ
賣買ノ契約ヲ解除ス可キノ約束ヲ以テ物品
ヲ賣買シタルニ於テハ直チニ其物品所有ノ
權ヲ買主ニ移ス可シ

又或事ノ現ニ生スル迄賣買ヲ停止ス可キ約
束ヲ以テ賣買ノ契約ヲ為シタル時其事ノ現
ニ生スルニ於テハ其物品所有ノ權ヲ當テ契
約ヲ為セシ時ヨリ以來買主ニ屬シタルト看
做ス可シ

第三百三十九條 前條ニ記スル二箇ノ場合ニ
於テ或事ノ生スル迄ハ其權ヲ行フヲ停止ス
可キ約束ヲ以テ賣主ヨリ右物品ニ付キ書入

質ノ權ヲ得タル債主又ハ或事ノ生スル時ハ
其權ヲ解除ス可キ約束ヲ以テ買主ヨリ右物
品ニ付キ書入質ノ權ヲ得タル債主ハ其賣主
ト買主トノ間ニ已レニ知ラシメス約束ヲ結
ビタルカ為メ已レノ權ヲ害セラル、トナカ
ル可シ

第三百四十條 正當ノ名義アリテ且法律ニ循
ヒ已レノ權利ヲ保存セシ正實ノ意アル者ニ
對シテハ不動産ノ買主後ノ篇ニ記スル規則
ニ循ヒ其賣買ノ證書ヲ簿冊ニ登記シタルニ
非サレハ不動産所有ノ權ヲ得タルモノトス
可カラズ又權利ノ買主ハ此篇ニ記スル所ニ
循ヒ其賣買証書ヲ送達シテ右ノ者ノ承諾ヲ

得タルニ非サレハ右ノ者ニ對シテ其權利ヲ
得タルモノトス可カラズ

第二節 品物ノ引渡及ヒ品物ニ

付テノ保証

第一則 品物ノ引渡

第三百四十一條 品物ノ引渡トハ品物ヲ買主
ニ渡シ買主ヲシテ之ヲ所有シ且妨ケナク其
利益ヲ得ヤシムルヲ云フ
又賣主其品物ヲ買主ノ隨意ニ為ス可ク換様
ト為シ且其旨ヲ買主ニ知ラシメタル時ハ縱
令買主現ニ之ヲ受取ラスト虽モ賣主其引渡
ノ義務ヲ行フタルモノトス

第三百四十二條 物品ノ引渡方ハ其品物ノ種

類ニ目テ互ニ相異ナリ
故ニ不動産ヲ引渡スヘキ時其不動産家屋々
ルニ於テハ其鎖鑰ヲ渡シ又土地タルニ於テ
ハ其証券ヲ渡ス可シ但シ之レカ為メニハ買
主其不動産ヲ所有スルニ妨害ナキトシテ要
トス
又動産ヲ引渡ス可キ時ハ現ニ其動産ヲ引渡
シ又ハ之ヲ入レタル倉庫ノ鎖鑰ヲ渡ス可シ
又物品ノ買主既ニ以前ヨリ其品物ヲ賣買ニ
非カル名義ヲ以テ已レニ保有シタル時ハ賣
主ト買主ト双方ノ承諾ノミニテ其引渡ヲ成
就シタルモノト為ス可シ
第三百四十三條 賣買シタル權利ニ付テハ其

証書ヲ渡シ又ハ賣主ヨリ買主ニ其權利ヲ行
フヲ許ルシタルヲ以テ其權利ヲ引渡シタル
モノト為スヘシ但シ之レカ為メニハ買主其
權利ヲ行フニ妨害ナキトシテ要トス
第三百四十四條 買主其約束通リノ代價ヲ拂
ハス且賣主ノ承諾ナク其品物ヲ所有ト為ス
時ハ其所有ノ効ナク賣主其所有ノ權ヲ復ス
ルヲ得可シ
又右ノ場合ニ於テ買主ノ其品物ヲ所有スル
時間ニ其品物ノ滅尽スル時ハ買主其損失ヲ
擔當ス可シ
第三百四十五條 賣買シタル品物ハ其賣買ノ
時所在ノ場所ニ於テ之ヲ引渡ス可シ但シ之

ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第三百四十六條 若シ賣買ノ契約書ニ其品物

ノ現ニ在ル場所ニ非カル場所ヲ其所在ノ地

ナリト指定スル時ハ賣主買主ヨリノ要ノニ

應ニ其品物ヲ其現ニ在ル場所ヨリ特ニ指定

ノタル場所ニ運送セサル可カラス

若シ又其運送ヲ為ス能ハス又ハ其運送ニ因

リ買主ノ損失タル可申遅延ヲ生スル時賣主

ニ不正ノ事アルニ於テハ買主損失ノ償ヲ得

テ賣買ノ契約ヲ取消スルヲ得可シ

第三百四十七條 賣買シタル品物ノ引渡ハ契

約書ニ定メタル期日ニ之ヲ為ス可シ若シ契

約書ニ其引渡ノ期日ヲ定メザル時ハ賣買ノ

時直ニ之ヲ引渡ス可シ但シ習慣ニ於テ其

引渡期日ノ定マリタル場合ハ格別ナリトス

第三百四十八條 買主賣主ニ品物ノ引渡ヲ要

メタル後賣主猶之ヲ引渡サ、ル時ハ買主其

賣買ノ契約ヲ取消シスハ其品物ヲ已レノ所

有ト為スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テ賣主

ノ所為ニ因リ其引渡ヲ遅延シタル時ハ買主

其損失ヲ償フ得ント要ムルヲ得可シ

第三百四十九條 賣主ハ契約シタル代價ノ全

部又ハ一部ヲ現金ニテ受取ル迄其賣リタル

品物ヲ引當ノ置クノ權アリ但シ買主ヨリ保

証品ヲ出シ又ハ保証人ヲ立ツル時ト虽モ亦

之レニ同シ然レ氏其賣買ノ契約ヲ為シタル

後代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ期限ヲ定メタ
ル時ハ格別ナリトス

第三百五十一條 賣主已レノ意ヲ以テ買主ニ物
品ヲ引渡シタル時ハ縱令其代價ヲ受取ラス
ト雖モ其引渡シタル物品ヲ取戻ス可カラズ
但シ此場合ニ於テハ買主賣買ノ契約ノ如ク
執行ハカルニ付キ賣主其契約ヲ取消スノ權
アリ

第三百五十一條 賣主ヨリ代價ノ全部又ハ一
部ヲ受取ル為ノ買主ニ催促各ヲ送リタル時
ハ賣主物品ノ引渡ニ付キ故障ヲ述フ可カラ
ズ

第三百五十二條 若シ買主代價ヲ拂フ為メ立

テタル保証高ヲ減シタル時又ハ其家産衰敗
シテ賣主其代價ヲ得可カラサルノ恐アル時
ハ縱令其代價ヲ拂フ可キ期限ニ至ラカル前
ト雖モ賣主其品物ヲ已レニ引留ムルヲ得
可シ但シ買主ヨリ賣主ニ保証ヲ立テタル時
ハ格別ナリトス

第三百五十三條 若シ買主ノ家資分散ヲ為シ
タル時ハ賣主商法ノ規則ニ循ヒ其賣リタル
物品ヲ引留メ又ハ引渡シタル物品ヲ取戻ス
ノ權ヲ行フヘシ

第三百五十四條 引渡ノ費用引渡ノ地ニ運送
スル費用度量ノ費用等ハ賣主之ヲ擔當ス可
シ

第三百五十五條 引渡ノ地ヨリ他所ニ運送スル費用並ニ代價ヲ拂フ費用ハ買主之ヲ擔當ス可シ

又契約書ノ費用モ買主之ヲ擔當ス可シ但シ商業ノ習慣ニ之ニ反シタル定メアル時ハ格別ナリトス

第三百五十六條 品物ヲ引渡ス時ハ其主品ト品物ノ種類及ヒ双方ノ意見ニ因リ其主品ノ欲ク可カラサル附従品ナリト看做ス可キ諸件トシ引渡ス可シ

第三百五十七條 後ノ數條ニ記列シタル場合ニ於テ契約書中ニ別段約定セシ事アラサル時ハ左ノ規則ヲ遵守ス可シ但シ各地ノ習慣

ハ例外ナリトス

第三百五十八條 乳汁ノ生スル牝牛ヲ賣リタル時ハ其乳汁ヲ飲マシムル牛仔ヲモ亦保含ス可シ

第三百五十九條 園庭ヲ賣リタル時ハ園庭内ニ植エタル樹木ヲモ亦保含ス可シ但シ既に成熟シタル樹木並ニ鉢ニ植エ又ハ培樹場中ニアル小樹ハ保含スルコトナシ

第三百六十條 土地ヲ賣ルトモ穀草ヲ保含ス可カラス

第三百六十一條 家屋ヲ賣ル時ハ其家屋ニ附着シタル品物ヲ保含ス可シ但シ破毀セズ除去スルヲ得可キ動産ハ保含ス可カラス

又此事ニ附テハ其地ノ習慣ニ循テ可シ
第三百六十二條 賣主ハ契約書ニ指定ノタル
如キ分量目方方積ノ物品ヲ引渡ス可シ
第三百六十三條 其種類互ニ相易ユルヲ得可
キ物品ヲ一纏ニ為シ賣買シタル場合ニ於テ
其物品ノ分量ヲ定メ且其分量何程ニ付キ價
幾許タルヲ定メシ時其現ニ在ル所ノ分量其
定メタル分量ニ足ラサルニ於テハ買主其賣
買ノ契約ヲ取消シ又ハ其不足ニ准シ價ヲ減
シテ其契約ノ如ク執行フ自由ナリトス
第三百六十四條 若シ現ニ在ル所ノ分量其定
メタル分量ニ過クル時ハ其餘分ヲ賣主ニ屬
セシム可シ

第三百六十五條 若シ度量シテ算計ス可キ物
品ヲ賣買シ其物品ヲ分ツニ於テハ之ヲ破毀
ス可キ時賣買契約書ニ詳カニ其度量ヲ指定
シ且其度量何程ニ付キ價幾許タルヲ指定シ
タルニ於テハ買主其賣買契約書ヲ取消シ又
ハ其契約書ヲ保テ置キ現ニ在ル所ノ度量ニ
准セシ價ヲ拂フテ其物品ヲ引取ル自由ナ
リトス
若シ右ノ場合ニ於テ契約書ニ物品ヲ一纏ニ
為シタル價ノミヲ指定メタル時ハ買主其契
約書ヲ取消シ又ハ契約シタル價ニテ其物品
ヲ引取ル自由ナリトス
第三百六十六條 前數條ニ記シタル場合ニ於

テ其錯誤契約書ニ指定ノタル價ノ二十分一
以上タル時ニ非ヤレハ買主其契約書ニ取消
ス可カラス

第三百六十七條 賣買ノ契約書ヲ取消ス可キ
時賣主既ニ代價ヲ受取リタルニ於テハ其代
價ト契約ノ費用並ニ買主ノ正當ニ出シタル
費用トヲ還ス可シ

第三百六十八條 買主別段ノ約束ヲ定メス物
品ヲ已レニ引取リシ後之ヲ書入實ニ為シタ
ルニ因リ又ハ其他ノ方法ニ因リ其物品ノ錯
誤又ハ其物品ノ品質ヲ知りタル時ハ買主其
賣買ノ契約書ヲ取消ス可キノ權ナシ
第三百六十九條 買主ノ賣買契約ヲ取消カニ

トスル許又ハ代價ヲ減ヤントスル許並ニ賣
主ノ増代價ヲ得ントスル許ハ其賣買契約ノ
日ヨリ一年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス
第三百七十條 賣主ノ過失又ハ懈怠ノ有無ヲ
問ハス物品ヲ引渡カ、ル前ニ若シ其物品ノ
滅盡シタル時ハ賣買契約ヲ解除シテ其代
價ヲ還ス可シ但シ買主賣主ヨリ物品ヲ引取
ル可キノ催促書ヲ受ケ又ハ此類ノ書面ヲ受
ケテ猶之ヲ引取ラス又ハ契約書ニ其物品ヲ
引取ル可キ期限ヲ定メ其期限ニ至リ猶之ヲ
引取ラサル時ハ格別ナリトス

第三百七十一條 買主物品ヲ引取ラサル前ニ
其物品卑價ニ至リ其價ノ減シ若シ賣買ノ契

約ヲ為ス前ニ其價ノ減シタル時ハ初ノヨリ
其賣買ノ契約ヲ為ス₁ナカル可シト思科ス
可キニ於テハ買主其契約ヲ取消シ又ハ約束
シタル價ニテ其契約ノ如ク執行フ₁自由ナ
リトス但シ買主其物品ヲ書入質ニ為ス₁ヲ
承諾シタル時ハ格別ナリトス

第三百七十二條 若シ前二條ノ場合ニ於テ買
主ノ過失ニ因リ物品ヲ減尽セシメ又ハ其價
ヲ減セシメタル時ハ買主其代價ノ全部ヲ拂
ハサルヲ得ス若シ又賣主ニ其過失マル時買
主其賣買ノ契約ヲ取消サント欲スルニ於テ
ハ賣主其損失ノ價ヲ擔當シ又買主其賣買ノ
契約ヲ保タント欲スルニ於テハ賣主其價ヲ

減ス可シ

第二則 品物ニ付テハ保証

第一種 賣買ニ關係セキ者

ヨリ物品ヲ取戻サント許
フル₁ナキ旨ヲ賣主ノ買

主ニ保証スル事

第三百七十三條 物品ノ賣主ハ已レノ所有物
ナリト為シ賣渡ス物品ニ付キ其賣買ノ時ニ
當リ其物品ノ物權ヲ有スルト称スル者ヨリ
買主ノ權ヲ妨害スル₁ナカル可キ旨ヲ買主
ニ保証ス可ク又引渡ノ式ヲ行ヒ所有ノ權ヲ
移ス可キ物品ニ付テハ其引渡ノ時ニ當リ其
物品ノ物權ヲ有スルト称スル者ヨリ買主ノ

権ヲ妨害スル一ナカル可キ旨ヲ買主ニ保証
ス可シ但シ此事ニ付テハ別改契約ヲ為スニ
及ハス○又右賣買ノ時ヨリ後又ハ引渡ノ時
ヨリ後ニ賣主ヨリ右物権ヲ得タル者アリト
虽モ賣主買主ニ對シテ全上ノ保証ヲ為ス可
シ

第三百七十四條 賣主ハ買主ノ其物品ヲ有ス
ルニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルトキヲ保証
セサルノ契約ヲ結ブ一ヲ得可シ○然レ氏意
味ノ迄キ文詞ヲ以テ其契約ヲ為シタルニ於
テハ後ニ買主其物品所有ノ権ヲ奪ハル、一
アル時賣主唯其損失ノ償ヲ為ス可キ義務ヲ
免ル、ノミトシ代價ヲ還ス可キ義務ヲ免ル

可カラズ

第三百七十五條 賣主買主ノ其物品ヲ有スル
ニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルトキヲ保証セ
サル契約ヲ為シタル時其代價ヲ還ス可キ義
務ヲ免ル、ニハ買主其賣買ヲ為セシ時其物
品所有ノ権ヲ奪ハル可キノ原由アルヲ知リ
タルノ証アリ又ハ買主其物品ヲ買入ル、ニ
付テハ何事ニ因ラス已レニ擔當ス可キ旨ヲ
述ヘタルノ証アル一ヲ必要トス

第三百七十六條 若シ買主ノ所有ト為セシ物
品ヲ已レニ取戻シント訴フル者賣主ヨリ其
権ヲ授リ得タルニ於テハ縱令賣主買主ノ其
物品ヲ有スルニ付テ他人ヨリ妨害ヲ受クル

ナキヲ保証セサル契約ヲ為シタルトモ其
契約ノ効ナカル可シ

第三百七十七條 賣主買主ノ其物品ヲ有スル
ニ付キ他人ヨリ妨害ヲ受クルナキヲ保証シ
タル時買主其所有ノ權ヲ奪ハル、ニ於テハ
賣主ヨリ其損失ノ償ヲ為シ且其代價ヲ還ス
可シ

第三百七十八條 其損失ノ償ハ契約ヲ為ス費
用其契約ヨリ生スル費用買主ノ其買入レタ
ル物品ニ付キ出シタル費用他人ヨリ其物品
所有ノ權ヲ已レ、ニ取還カント為ス訴訟ニ付
テノ費用賣主ヲ其保証人ト為シテ呼出ス費
用及ニ其他総テ買主ノ受ケタル損失又ハ其

失フタル当然ノ利益ヲ包含ス可シ

第三百七十九條 賣買シタル物品ノ
其賣買ノ後直打ノ減シタル内
ト虽モ其原由ノ如何ヲ問ハス
其代價ノ全部ヲ還サ、ル可カ
ラス

第三百八十条 又其賣買シタル
物品ノ其賣買ノ後直打ノ増
シタル内ハ其代價ノ上ニ直
打ノ増シタル高ヲ損失ノ償
高中ニ包含ス可シ

第三百八十一条 賣主ハ買主ノ其
物品ニ付キ出シタル有益ノ費

用ヲ償フ可シ但シ其物品ニ付
キ所有ノ權ヲ、取還シタル者其
費用ヲ償フ可キ其ハ格別ナリ
トス

第三百八十二条 若シ賣主ノ不正ナ
ル内ハ買主ノ其物品ニ付キ出
シタル奢侈ノ費用ヲモ亦償フ
可シ

第三百八十三条 若シ買主其買入レ
タル物品ノ一部ノ所有ノ權ヲ
奪ハル、片又ハ其買入レタル物
品ニ付キ賣買ノ契約前ヨリ目ニ觸レサ
ル土地ノ義務アリテ賣主其義務アルコ

ト告知セサル片買主其物品ノ一部ヲ奪ハレ
又ハ其負フタル土地ノ義務頗ル重大ニシテ
若シ買主初メヨリ之ヲ知テハ其物品ヲ買入
ル、トナカル可シト思料ス可キニ於テハ法
律上ニテ其物品ノ一部ヲ奪ハレ又ハ土地ノ
義務ヲ負フタルヲ以テ物品ヲ全部ヲ奪ハレ
タルト同視ス可シ

第三百八十四条 前条ノ場合ニ於テハ買主ノ
隨意ニテ賣買ノ契約ヲ保テ置クコトヲ得可シ
然レ其買主ハ吞入質ノ權ヲ有スル債主ノ權
利ヲ害シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可カラズ
第三百八十五条 若シ賣買契約ヲ保テ
置ク片又ハ物品ノ一部ヲ奪ハレ或ハ土地ノ

義務ヲ負フタルト雖モ之レリ為メ賣買契約
ヲ取消ヲ允許スルニ足ラサル片ハ買主其所
有ノ權ヲ奪ハレタル片ノ其物品ノ実價ニ准
シ其奪ハレレ一部ノ代價ヲ賣主ヨリ取還サ
ントホツ又土地ノ義務ヲ負フタル片ハ裁判
所ヨリ言渡レタル損失ノ償ヲ賣主ヨリ得ン
ト求ムルヲ得可レ

第二種

賣買シタル物品ニ目ニ觸レサ
ル不良ノ所ナキ旨ヲ賣主ノ買
主ニ保証スル事

第三百八十六条 賣主ハ其賣リタル物品ニ買
主ノ計算セシ直打ヲ減セシム可キ不良ノ所
ナキ旨ヲ保証シ又其物品ヲ当然ノ用法ニ供

スルヲ能ハサラレム可キ不良ノ所ナキ旨ヲ
保証ス可シ

第三百八十七条 物品ヲ其当然ノ用法ニ供ス
ルヲ能ハサラレム可キ不良ノ所アル片又ハ
物品ノ直打多分ニ減シ若シ買主初メヨリ之
ヲ知ラハ其物品ヲ買入ル、ナカル可キヲ
思料ス可キ片ハ買主存入質ノ權ヲ有スル債
主ノ權利ヲ害セサル様其賣買ヲ契約ヲ取消
シ又ハ減價ヲ求ムルヲ自由ナリトス但シ賣
主其不良ノ所アルヲ知テ之ヲ賣リタルノ証
アル片ハ損失ノ償ヲモ亦出サレム可シ

第三百八十八条 賣主其不良ノ所アルヲ知ラ
サル片ハ買主其賣買ノ契約ヲ解除シテ其契

約ニ付テノ費用ヲ還サレシメ又ハ協議シタル
價ニテ其物品ヲ保子置ク一自由ナリトス
第三百八十九条 若シ特ニ定メタル数箇ノ物
品ヲ賣買シタル片買主其物品引取ノ前ニ其
数箇中ノ一部ノシニ付キ不良ノ所アルヲ見
出シ其賣買ノ契約ヲ取消ス可キ権アル片ハ
買主其全部ニ付キ其契約ヲ取消サ、ルヲ得
ス
第三百九十条 若シ買主其物品ヲ引取りタル
後ニ不良ノ所アルヲ見出シタル片ハ買主其
不良ナル物品ノシニ付キ賣買ノ契約ヲ取消
ス一ヲ得可シ但シ其物品ヲ他ノ物品ト分テ
損害ヲ生スル片ハ格別ナリトス

第三百九十一条 若シ前条ノ場合ニ於テ其種
類ニ相易ユルヲ得可キ物品ニ付テハ買主
其引取ノ後ト虽モ其物品ノ一部ノシニ付キ
賣買ノ契約ヲ取消ス一ヲ得可シ
第三百九十二条 月ニ觸レサル不良ノ所アリ
ト虽モ之レカ為メ賣買ヲ妨クルニ至ラサル
片ハ買主其不良ナルニ准シ其價ヲ減マレム
可キノ権ヲ有スルノトス但シ其減價ハ討
價人ノ定ムル所ニ從フ可シ
第三百九十三条 其減價ヲ討ルニハ不良ナラ
サル物品ノ直ノ直打ト其現在ノ有様ニ於テ
ル直ノ直打トヲ比較シ其定約ヲ契約シタル
價ニ照合ハス可シ

第三百九十四条 月ニ觸ル、不良ノ所及ヒ買主ノ知り得タル不良ノ所ハ賣主之ヲ保証スルニ及ハス

第三百九十五条 又賣主月ニ觸レサル不良ノ所アリ氏之ヲ保証セサルトテ契約レタルハ其保証ノ義務ナレトス但し賣主自カラ其不良ノ所アルヲ知りタルノ証アルハ格別ナリトス

第三百九十六条 賣主ナレテ月ニ觸レサル不良ノ所アルノ責ニ任セシムルニハ其不良ノ所旧キモノタル可シ

第三百九十七条 時ニ定メタル物品ニ付テハ賣買ノ時ヨリ在来ノ不良ナル所ヲ指シ旧キ

モノト云ヒ又時ニ定メサル物品ニ付テハ引渡ノ時ヨリ在来ノ不良ナル所ヲ指シ旧キモノト云フ

第三百九十八条 若シ時ニ定メタル物品ニ付キ旧キ不良ノ所アリテ其賣買ノ後突ニ新ナル不良ノ所生レタルハ又時ニ定メサル物品ニ付キ旧キ不良ノ所アリテ其引渡ノ後更ニ新ナル不良ノ所生レタルハ又ハ買主或ハ其他ノ者旧キ不良ノ所アル物ヲ引取りタル後其模様ヲ変易レタルハ買主其賣買ノ契約ヲ取消ス可カラス但し新ナル不良ノ所消滅シ又ハ賣主新ナル不良ノ所アル終ニテ其物品ヲ取還ス可キトテ承諾シタルハ格別

ナリトス

買主ハ右ノ場合ニ於テ減價ヲ求ムルヲ得
可ク其減價ハ第三百九十三條ノ規則ニ循ヒ
之ヲ其減可レト虽凡新ナル不良ノ所又ハ模
様ノ変易ヲ其算計中ニ加フ可カラズ

第三百九十九條 若シ旧キ不良ノ所アルニ因
リ物品ノ減尽レタル片ハ賣主其損失ヲ擔當
其時ノ模様ニ因リ前ニ記シタル如ク償還
及ヒ損失ノ償ヲ為ス可シ

又舊キ不良ノ所アル物品新ナル不良ノ所生
シタルニ因リ又ハ偶然ノ事起リタルニ因リ
全ク減尽レタル片モ賣主其損失ヲ擔當ス可
シ但シ之レカ為ノニハ旧キ不良ノ所アル証

アリテ且減價ヲ為ス可キ片ハ其減價ヲ討リ
得可キト必要トス

第四百條 目ニ觸レサル不良ノ所アルニ付テ
ノ訴訟ハ其不良ノ所アルヲ見出しタル片日
リ八日以内ニ之ヲ為ス可シ若シ其期限内ニ之
ヲ為ササル片ハ其訴訟ヲ為スノ權ヲ失フ可シ

第四百一條 買主其物品ニ不良ノ所アルヲ見
出しタル後之ヲ已レノ隨意ニ為ス所為ヲ行
フタル片ハ其不良ノ所アルニ付テノ訴訟ヲ
為ス權ヲ失フ可シ

第四百二條 商品ノ減量ニ付テハ商業ノ習慣
ニ從フ可シ

第四百三條 裁判所ノ命又ハ行政官ノ命ニテ

物品所在ノ場所ニ於テ之ヲ糶賣ニ為シタル
片又ハ物品ヲ檢視シ得ヘキ場合ニ於テ之ヲ
糶賣ニ為シタル片ハ其物品ニ目ヲ觸レサル
不良ノ所アルヲ以テ訴訟ヲ為ス可カラス

第三節 代價ヲ拂フ事

第四百四条 買主ハ契約各ニ定メタル期限ト
場所トニ於テ其約束シタル通り代價ヲ拂フ
可シ

第四百五条 別段ノ契約アラサル片ハ物品引
渡ノ場所ニ於テ現金ニテ代價ヲ払フ可シ

第四百六条 若シ代價ヲ拂フニ付テノ猶豫ノ
期限アル片ハ買主ノ住所ニ於テ代價ヲ払フ
可シ

第四百七条 然レ氏此等ノ事ニ付テハ其地ノ
習慣及ヒ商業ノ習慣ニ従フ可シ

第四百八条 代價ヲ拂フ可キ期ニ至リ買主之
ヲ拂フ可キ催促ヲ受ケレ片ヨリ後ニ非サレ
ハ其代價ニ付テノ利息ヲ拂フナリル可シ
但シ別段ノ契約アル片ハ例外ナリトス

第四百九条 買主ハ其賣買前ニ得タル権ヲ有
スル者又ハ賣主ヨリ權ヲ得タル者ノ為メ其
買入レタル物品ヲ有スルニ妨害ヲ受ケレ片
又ハ他人ノ為メ其買入レレ物品ヲ有スルニ
妨害ヲ受クルノ虞慮アル片ハ其妨害ノ消滅
シ又ハ其虞慮ノ消除スルニ至ル迄其代價ヲ
已レニ引留メ置クナリ得可シ但シ別段ノ契

約アル片ハ例外ナリトス

第四百十條 然レモ賣主ハ前條ノ場合ニ於テ
保証人ヲ立テ代價ヲ得ルト要ムルヲ得可
シ

第四百十一條 若シ買主契約ニタル期日ニ至
リ代價ヲ拂ハサル片ハ賣主吞入貨ノ權アル
債主ノ權利ヲ害セサル様其賣買ノ契約ヲ解
除スルヲ要メ又ハ買主ヲシテ其代價ヲ拂ハ
シム可キ裁判言渡ヲ得ルト自由ナリトス
第四百十二條 裁判所ニ於テハ至重ナル道理
アル時買主ニ代價ヲ払フニ付キ相当ノ猶豫
ヲ許ルストテ得可シ但シ別段ノ道理アル片
ハ其賣買シタル物品ヲ他人ニ附託ス可キト

ヲ言渡ス可シ

第四百十三條 一度猶豫ヲ許ルシタル片ハ更
ニ猶豫ヲ許ルス可カラス

第四百十四條 若シ買主代價ヲ払ハサル片ハ
当然賣買ノ契約ヲ解除ス可キ契約アルニ於
テハ買主其代價ヲ払ハサル片裁判所ヨリ其
買主ニ猶豫ヲ許ルス可カラス且買主賣主ヨ
リ代價ヲ拂フ可キノ催促吞ヲ受ケ尚之レヲ拂
ハサルニ於テハ其賣買ノ契約ヲ解除ス可シ
但シ其契約吞ニ右催促吞ヲ送ラスニテ其契
約ヲ解除ス可キトテ定メタル片ハ格別ナリ
トス

第四百十五條

前數條ノ場合ニ於テハ管係ナ

キ者ニ對シ不動產賣買ノ契約ヲ解除セシ効
ヲ以テ其不動産ニ付キ移入賃ノ權ヲ有スル
債主ノ權利ヲ害ス可カラス

第四百十六條 商品及ヒ不動産ノ賣買ニ付キ代
價ヲ払ヒ及ヒ物品ヲ引渡ス可キ期限ヲ契約
ニタル片其期限ニ至リテ其代價ヲ持ハサル
ニ於テハ別段催促書ヲ送ルニ不及ヨ熟賣
買ノ契約ヲ解除ス可シ

第五款 賣主ニ損失アル原由ヲ以テ賣
買ノ契約ヲ取消ス事

第四百十七條 不動産ノ賣買ニ付キ賣主ノ為
メ五分ノ一以上ノ損失アリト虽モ幼年ナル
賣主ノ為メニ亦サレハ其代價ノ増加ヲ許ル

カス

第四百十八條 賣主ノ為メ損失アルニ付キ訴
訟ヲ為スル權ハ賣主ノ丁年ニ至リ又ハ其死
去レタル日ヨリ二年間ニ之ヲ行フ可シ但シ
之レカ為メ不動産移入賃ノ權アル債主ノ權
利ヲ害ス可カラス

第六款 買戻ノ約束アル賣買

第四百十九條 買戻ノ約束アル賣買ノ契約ニ
二種アリ

第一 賣主ノ負債ノ質物ト為スタメ買戻
ノ約束ヲ以テ賣リタル不動産又ハ
動産ヲ買生ニ授ケ与フルタメ為シ
タル賣買ノ契約

第二 若し賣主其賣買ヲ為シタルヲ追悔スルハ諸事ヲ賣買以前ノ模様ニ復シ其物品ヲ取戻ス可キノ約束ヲ以テ為シタル賣買ノ契約

第四百二十条 第一ノ場合ニ於テハ不動産又ハ動産ノ質入ニ付テノ規則ニ循フ可シ

第四百二十一条 第二ノ場合ニ於テハ左ノ規則ニ循フ可シ

若し疑ハレキ事アルハ現金ニテ代價ヲ払ヒ又ハ代價ヲ以前ノ負債ト相殺シ又ハ代價ヲ利息ヲ以テ償ヒ又ハ名義ノ如何ナルヲ問ハス賣リタル物品ヲ賣主ノ方ニ保有シタルハ負債ノ質物ト為スタノ物品ヲ賣リタルモ

ノト着做ス之ニ及レタル場合ニ於テハ真ノ賣買ナリト着做ス可シ○此等ノ場合ニ於テハ契約各ノ文詞如何ナルヲ問ハス右ニ及シタル証ヲ立ルヲ得可シ

第四百二十二条 賣買シタル物品ハ其賣買ノ所為ニ因リ賣主ニ買戻ノ權アル約束ニテ買主ノ所有トナル可シ

故ニ賣主物品ヲ取戻スニ付キ定メタル約束ノ如ク執行ハサルハ買主其所有トナル可シ

又之ニ及シ賣主其物品ヲ取戻スニ付キ定メタル約束ノ如ク執行フタルハ其物品初メヨリ常ニ賣主ニ屬シタルモノト着做ス可シ

但し不動産ニ管スル他人ノ權利ニ付キ証各

登記ノ篇ニ記シタル規則ハ格別ナリトス
第四百二十三條 若シ賣買ノ契約存シ買戻ノ
權ヲ記セタル内ハ其買戻ノ契約ヲ為シタル
日ヨリ以來其買戻ノ權ヲ復シタリト看做ス
可シ

第四百二十四條 賣主ハ買戻ノ權ヲ行フニ付
キ賣買ヨリ二年以上ノ期限ヲ契約ス可カラ
ス若シ其契約シタル期限二年以上ナル内ハ
之ヲ二年ニ減スヘシ

第四百二十五條 前條ノ期限ハ嚴ニ之ヲ遵守
ス可ク若シ其期限ヲ過コス内ハ買戻ノ權ヲ
失ニ可シ但シ如何ナル場合ニ於テモ裁判所
ヨリ其權ヲ復セシム可カラズ 縱令抗拒ス可

カラサルカニ違ヒ已ムヲ得サル場合トモ
亦同様ナリトス

第四百二十六條 契約シタル期限ヲ更ニ延ハ
シタル内ハ買主ヨリ賣主ニ約束ヲ定メ賣戻
戻シタルト看做シ以前ノ賣買ノ日ヨリ期限
ヲ延ハシタル日ニ至ル迄買主ヲ其物品ノ真
ノ所有者ト看做ス可シ

第四百二十七條 買戻ノ約束ヲ以テ賣買ノ契
約ヲ為シタル賣主ハ定メタル期限内ニ適ク
ニ左件ヲ償フ可キトシ提供スルニ出サレハ
賣買ノ契約ヲ解除ス可カラズ

第一 代價

第二 賣買ノ費用及ヒ買戻ノ費用

第三 修理ノ費用ノ外買主ノ出シタル已
ムヲ得サル費用及ヒ其他ノ費行ニ
目リ物品ノ價ノ増シタル高但シ其
增高ハ美ニ過ク可カラス

第四百二十八条 全キ不動産又ハ共通シタル
不動産又ハ數ヶニ區分シタル不動産ヲ賣買
シタルハ其賣買シタル大ノ物ニ付キ買戻
ノ權ヲ行フ可ク更ニ多ク物或ハ又キ物ニ付
キ其權ヲ行フ可カラス但シ買主ノ遺物相続
人ニ對シ其各人ノ有スル共通ノ部分又ハ區
分シタル部分ニ付キ買戻ノ權ヲ行フ内ハ格
別ナリトス

第四百二十九条 若シ賣主ニ買戻ノ權アル約

束ヲ以テ共通ノ不動産ヲ買入レタル者其介
派ノ訴ヲ引続ニ目リ其不動産全部ノ所有ノ
權ヲ得タルハ其賣主ヲシテ其全部ヲ買戻サ
シムルヲ要ムルヲ得可シ

第七款 權利ノ賣買

第四百三十条 權利ノ賣買ハ前ニ記シタル一
般ノ規則ニ循フ可シ但シ左ニ記スル外ハ格
別ナリトス

第四百三十一条 賣主タル甲者ト買主タル乙
者トノ間ニ於テハ互相ノ承諾ノモテ以テ權
利ヲ賣買シタルモノト為ス可シ

第四百三十二条 又其承諾 即日權利ノ裏ヲ行
面ヨリ云フ 方法ニ因リ其權
ノ可キ兩者ニ對シテハ左ノ方法ニ因リ其權

利ヲ賣買シタルモノト為ス可シ

第一 其義務ヲ行フ可キ丙者ニ其賣買ノ旨ヲ報告スル事

第二 其丙者日付ノ慥カナル証唇ヲ以テ其賣買ヲ承諾シタル事但シ其日付ヨリ以來其承諾ノ如ク生ス可シ○又其丙者ノ承諾ノ内其証唇ノ日付慥カナラサル内モ丙者ニ對シテ其承諾ノ如アリトス但シ之レガ為ニ商業証券類及ヒ手形類ヲ賣買スルニ付テノ商業規則ヲ害ス可カラス

第四百三十三條 商業上ノ事ニ付テハ手形ヲ

以テ設ケ為シタルモノニ非サル權利ヲ賣買シ且規則ニ循ヒ設ケタル簿冊ニ因リ又ハ商業ノ事ニ付キ許シタル証ニ因リ其義務_前ニ行フ可キ者ニ其賣買ノ旨ヲ報告シタルト及ヒ其者ノ之ヲ承認シタルトヲ知り得可キ内ハ其者ニ對シテ其賣買ノ如アリトス

第四百三十四條 既ニ得タル遺物相続ノ權ヲ賣買シタル内ハ其遺物中ノ權利并ニ遺物相続ノ初マリシ時以來受取りタル利息高及ヒ其時以來払ヒタル費用負債等ヲ其賣買中ニ包含ス可シ但シ之ニ及シタル契約アル内ハ格別ナリトス

第四百三十五條 賣主ハ賣買ノ内其權利ノ現

存シタルトノシテ保証ス可ク且其代價ト費用トニ充ル迄ノ商ヲ保証ス可シ

第四百三十六條 賣主ハ別段ノ契約アルハニ
牀サレハ義務ヲ行フ可キ者ノ現在其義務ヲ
行ヒ得可キト又ハ將來其義務ヲ行ヒ得可キ
トヲ保証スルニ及ハス

右保証ノ限リハ第三百三十五條ニ記スル所
ノ如クタル可シ但シ契約書ニ別段ノ約束ヲ
記スルハ例外ナリトス

第四百三十七條 賣主若シ人ヲシテ義務ヲ行
ハシム可キノ権利アリト称スル言分ノミヲ
賣買シタルハ其契約書中ニ現ニ其権利アリ
ルトヲ明カニ記載ス可シ若シ現ニ其権利ノ

アラサルハト云モ賣主ヲシテ其責ニ任ヤシ
ム可カラス

第四百三十八條 前條ノ如ク為シ権利ヲ賣リ
タルハ又ハ権利ノ本案ニ付キ訴訟ノ起リタ
ル者ニ其代價ト利息及ヒ費用トヲ償ヒ其權
利即チ義務ヲ消散セシムルトヲ得可シ

第四百三十九條 此遺物相続人ヨリ彼遺物相
続人ニ權利ヲ賣リ又ハ權利ヲ共通スル一人
ヨリ他ノ共通者ニ其權利ヲ賣リタルハ又ハ
義務ヲ行フ可キ者ヨリ之ヲ行ハシム可キ者
ニ其義務ヲ行フニ代ヘ人ヨリ得可キ權利ヲ
譲リタルハ又ハ争アル權利ノ買主自カラ訴
ヲ受クルヲ免ル、為シ其權利ヲ買入レタル

時ハ前条ノ規則ヲ通シ用フ可カラス

大
學
院

民法第...条

第...条

大
學
院

埃及
律書

民法草案

卷四



國立中央
法律學院

第二章 貸貸ノ契約

第四百四十條 貸貸ノ契約ニ二種アリ

一ハ物件賃貸ノ契約

一ハ人身賃貸或ハ勞力賃貸ノ契約

第一款 物件賃貸ノ契約

第四百四十一條 物件賃貸ノ契約トハ甲者乙者ヨリ定マリシ賃銀ヲ得テ定マリタル期限間已レノ物件ヲ乙者ニ貸シ乙者ヲシテ其利益ヲ得セシムル契約ヲ云フ

第四百四十二條 物件賃貸ノ契約ヲ書面ニ記

セサル時未タ現ニ其契約ノ如ク執行セ初メ

ナルニ於テハ其契約ヲ結ヒタリト言掛ケラ

レレ者ノ自認又ハ誓詞ニ非サレハ之レカ證

ヲ立ツ可カラス

若シ現ニ其契約ノ如ク執行ニ初メタル時賃銀ノ受取書アラサルニ於テハ評價人ヲレテ其賃銀ノ高ヲ定メシム可ク又其契約ノ期限ハ地方ノ習慣ニ從テ定ム可シ

第四百四十三條 物件ノ所有者ノ承諾ヲ得スシテ其入額所得者ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契約ハ其入額所得ノ權ト同時ニ終ル可シ但シ借主ヲ退去セシムルニ必要ナル猶豫又ハ穀物ヲ運ヒ去ルニ必要ナル猶豫ハ之ヲ許ルサ、ル可カラス

後見人又ハ管財人ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契約ハ三年間ト為ス可シ但シ後見ノ事ヲ裁定

ス可キ相當ノ裁判所ヨリ更ニ長キ時間其契約ヲ結フ可キトノ允許シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十四條 借主數名ノ權互ニ抵觸スル時ハ最初其物件ヲ已レニ受取リタル者ヲ其當然ノ借主ト定ム可シ但シ不動産從來ノ借主新ナル借主ノ現ニ其不動産ヲ受取ル以前ニ再度ノ借受契約書ヲ不動産書入賃役所ノ簿冊ニ登記シ又ハ從來ノ借受契約未タ終リニ至ラサル中ニ更ニ新ナル契約書ヲ右役所ノ簿冊ニ登記シタル時ハ格別ナリトス
第四百四十五條 借主ハ其借受ケタル物件ノ全部又ハ一部ヲ更ニ人ニ貸渡シ又ハ其借受

契約書ヲ人ニ譲リ渡ス_トヲ得可シ但シ之ヲ
及シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百四十六條 若シ借主ヨリ其物件ヲ更ニ
人ニ貸渡ス可カラサルノ禁アル時ハ其借受
契約書モ亦人ニ譲リ渡ス可カラサルノ禁ア
リト看做シ又借主其借受契約書ヲ人ニ譲リ
渡ス可カラサルノ禁アル時ハ其物件モ亦更
ニ人ニ貸渡ス可カラサルノ禁アリト看做ス
可シ

然レ氏商業又ハ工作ノ設置物ヲ其借主更ニ
人ニ貸渡ス可カラサルノ禁ヲ犯シ之ヲ貸渡
シタル時其時ノ模様ニ因リ其設置物ヲ賣拂ハサ
ル可カラサル事アルニ於テハ裁判所ニ於テ其

買主 即チ借主ヨリ更ニ借受ケタルノ提供セ
上其物件ヲ買ハントスル者ノ提供セ
レ保證ヲ見積リ貸主ノ為メ損害アラサルヲ
知ル時ハ其又貸リ契約ヲ保タシムル_トヲ得
可シ

第四百四十七條 如何ナル場合ニ於テモ借主
ハ貸主ニ對シ己レヨリ更ニ借ヲ為シタル
者又ハ契約書ヲ譲リ受ケタル者ノ所為ヲ擔
當ス可シ但シ貸主別段ノ約束ヲ為サス其又
借人ヨリ直クニ貸銀ヲ受取り又ハ貸主借
主ヨリ人ニ又貸ヲ為シ或ハ其契約書ヲ譲リ
渡スト_ラ承諾シタル時ハ格別ナリトス
第四百四十八條 賃貸シタル物件ハ借主ニ渡
サント定メタル期日ニ其在ル儘ノ模様ニテ

之ヲ引渡ス可シ但シ其契約ヲ結ビシ後貸主
又ハ其代權人ノ所為ニ因リ其物件ヲ毀損シ
タル時ハ格別ナリトス

第四百四十九條 貸主ハ別段ノ契約アル時ニ
非サレハ其賃貸セシ物ヲ補理スルニ及ハス
第四百五十條 若シ賃貸セシ物ノ滅盡シ又ハ
其毀損シテ之ヲ用フルヲ能ハサルニ至リシ
時ハ其賃貸ノ契約ヲ解除ス可シ

第四百五十一條 又賃貸シタル物縱令毀損ス
ト雖モ之ヲ其當然ノ用法ニ供スルヲ能ハサ
ルニ至ラサル時ハ借主唯其毀損ニ准シ賃銀
ヲ減ス可キノ求ヲ為ス權アルノミトス但シ
之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百五十二條 家屋又ハ其一部ノ借主ハ貸
主其家屋ヲ保全スル為メ必要ナル切迫ノ修
理ヲ為スニ付キ其妨ヲ為ス可カラス然レ氏
其修理ノ為メ其家屋ヲ用フルヲ能ハサル時
ハ其時ノ模様ニ因リ或ハ賃貸ノ契約ヲ解除
シ或ハ其家屋ヲ用フルヲ能ハサル時間ノ賃
銀ヲ減セント求ムルヲ得可シ

第四百五十三條 如何ナル場合ニ於テモ家屋
ノ修理終リタル時猶其家屋ニ在ル借主ハ賃
借ノ契約ヲ取消セント求ム可カラス

第四百五十四條 貸主ハ借主ノ其物件ヲ用フ
ルニ付キ妨ヲ為ス可カラス又ハ其不動産或
ハ其附従物ヲ變更シテ借主ノ之ヲ用フル資

益ヲ減ス可カラス

第四百五十五條 若シ甲者ヨリ乙者ニ貸貸シタル物件ニ付キ丙者之ヲ已レノ有ト為ス可キノ權アリト述ヘ乙者ノ之ヲ用フル妨害ヲ為シタル時又ハ乙者ノ其物件ヲ借受ケシ眼目タル資益ノ一ヲ失ハシメシ時ハ乙者其時ノ模様ニ因リ或ハ其賃借ノ契約ヲ取消シ或ハ貸銀ヲ減セシト求ムルヲ得可シ

第四百五十六條 若シ前條ノ乙者丙者ヨリ最初妨ケヲ受ケタル時之ヲ甲者ニ告知セサルニ於テハ前條ニ記シタル權ヲ失フ可シ

第四百五十七條 借主ハ其借タル物件ヲ其當然ノ用法ニ従ヒ已レノ物品ヲ用フル如ク懇

切ニ注意シテ用フ可シ又借主ハ貸主ノ承諾ヲ得スレテ其物件ヲ變更ス可カラス

第四百五十八條 然レ氏借主其借タル物件ヲ變更セシ時ハ之ヲ其以前ノ模様ニ復スルニ及ハス但シ其變更ノ為メ貸主ニ損害ヲ生セシ時ハ格別ナリトス

第四百五十九條 借主ハ其借リシ物件ヲ契約書ニ定メタル所ヨリ更ニ他ノ用法ニ用フ可カラス

第四百六十條 借主ハ契約ノ終リニ至リ其借タル物ヲ現在ノ模様ノ儘ニテ還ス可シ但シ已レノ所為又ハ僕婢ノ所為又ハ其借タル不動産内ニ住スル者ノ所為ニ因リ其物件ヲ毀

損シタル時ハ之ヲ償フ可シ尤モ賃貸ノ契約書ニ之ヲ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百六十二條 借主ハ契約書ニ定メタル期限ニ其賃銀ヲ拂フ可シ

第四百六十二條 別段ノ契約アラサル時ハ物件ヲ使用スル各期限ノ終リ毎ニ其賃銀ヲ拂フ可シ

第四百六十三條 家屋、倉庫、鋪店、田野ノ小屋ヲ賃借シタル者ハ二年間ノ賃銀ヲ保証スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具等ヲ其借タル不動産内ニ備ヘ置キ又其賃借ノ期限二年以下ナル時ハ其期限ノ終リニ至ル迄ノ賃銀ヲ保証スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具

具等ヲ備ヘ置ク可シ但シ賃銀ヲ前拂ニ為シタル時ハ此例ニ非ス又其時ノ模様ニ因リ前ニ記シタル所ニ反セシ契約アルヲ思料ス可キ時ハ格別ナリトス

第四百六十四條 賃貸ノ契約ハ甚定メタル期限ニ至テ終ル可シ

第四百六十五條 若シ別段期限ノ定メサル時ハ賃銀ヲ毎年拂ヒ又ハ半年毎ニ拂ヒ又ハ一月毎ニ拂フニ從ヒ一年間又ハ半年間又ハ一月間其契約ヲ為シタルト看做ス可シ但シ此場合ニ於テハ貸主又ハ借主ノ意ニテ互ニ九ノ如ク告知ヲ為スニ因リ其契約右ノ期限ニ於テ終ル可シ

家屋、鋪店、倉庫ニ付テハ其貸貸ノ期限三月以上ナル時ハ三月前ニ互ニ告知ヲ為ス可ク又其期限三月又ハ三月以下ナル時ハ其期限ノ半、前ニ告知ヲ為ス可シ

房室ニ付テハ一月前ニ其告知ヲ為ス可シ土地ニ付テハ少クモ六月前ニ其告知ヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ未熟ノ穀物ヲ收納シタル後又ハ退去ノ時種ヲ蒔キタル穀物ヲ收納シタル後ニ非サレハ其貸貸ノ契約ヲ終フ可カラサルノ定メアルトナシ

第四百六十六條 一年又ハ數年間土地ノ貸貸スル契約アル時ハ穀物ヲ一回收納シ又ハ數回收納スルニ至ル迄其契約ノ期限ヲ及ホス

可シ

第四百六十七條 貸貸契約ノ期限ヲ其契約書ニ定メタル時ハ別段借主ニ退去メ告知ヲ為スニ及ハス

第四百六十八條 又契約期限ノ終リニ至リ借主貸主ノ承諾ヲ得テ引續キ借受クル時ハ以前ト全シ約束ヲ以テ習慣ノ期限間更ニ改メテ貸借ノ契約ヲ為シタルト看做ス可シ

第四百六十九條 退去スル借主ハ新ナル借主ノ土地ヲ耕シ種ヲ蒔クノ承諾ヲ為サル可カラズ但シ之レカ為ノ已レニ損害ヲ受クル時ハ格別ナリトス

第四百七十條 貸貸ノ契約ハ雙方其定メタル

義務ヲ行ハサルニ因リ又ハ前數條ニ定メタル義務ヲ行ハサルニ因リ之ヲ解除ス可シ但シ貸主ハ更ニ其物件ヲ貸渡スニ必要ナル時
間ノ賃銀ト以前ノ契約期限中ニテ猶殘リタル時間ノ賃銀ノ減損高トニ當ル損失ノ償高
ヲ得可シ

第四百七十一條 貸貸契約ノ日附賣買契約ノ日附ノ前ナラサル時ハ賣買ノ契約ニ因リ賃貸ノ契約ヲ取消ス可シ

第四百七十二條 然レ氏買主ハ前ニ記セシ期限内ニ退去ノ告知ヲ為シタル後ニ非サレハ強テ借主ヲ退去セシム可カラス

第四百七十三條 右ノ場合ニ於テ契約ニ反キ

退去ノ告知ヲ得タル借主ハ貸主ヨリ其損失ノ償ヲ得ント求ムルヲ得可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百七十四條 右借主ハ貸主又ハ貸主ニ代レル買主ヨリ其償ヲ得タル後又ハ此等ノ者ヨリ相當ノ保証ヲ立テタル後ニ非サレハ強テ退去セシメラル、トナカル可シ

第四百七十五條 貸貸ノ契約ハ貸主又ハ借主ノ死去ニ因リ之ヲ解除ス可カラス但シ貸主土地ノ収納物ノ一部ヲ已レニ分テ得可キノ約束ヲ以テ土地ヲ貸渡セシ時ノ如ク總テ借主ノ一身ノ勞力又ハ其一身ノ工技ノミヲ眼目ト為シ貸渡シタル時ハ格別ナリトス